同一の50発言を用いた
3種の対話AIによる
人物判断予測

二択中心20問と自由回答10問の単一事例研究

研究報告書　2026年9月13日

本文と原文資料集

同じ入力を受けたAIの判断の収束と、本人回答との相違を記録する。結論だけでなく、論点、条件、適用範囲、評価工程の誤差を検討する。

対象　本人1名　　比較　ChatGPT Gemini Claude

収録　50発言　20問と人物像テストA〜E　自由回答10問　確信度の記録　評価訂正の記録

構成

要旨

1 研究目的と研究課題

2 対象と資料

3 実験条件と再現可能性

4 第1実験の方法と評価規則

5 第1実験の結果

6 A〜E人物像テスト

7 自由回答10問実験の方法

8 自由回答10問の結果

9 Gemini Q7と評価者AIの見落とし

10 考察

11 限界と今後の検証

12 結論

13 資料一覧と付録の読み方

付録A 実験概要と50発言および設問原文

付録B 本人の20問回答

付録C 3AIの20問回答と人物像テスト原文

付録D 自由回答10問の設問と全回答

付録E 欠落資料

要旨

本研究は、同一人物を材料として作成した50個の発言をChatGPT、Gemini、Claudeに同じ順番で逐次提示し、各AIによる人物像の記述、未知問題への回答予測、および本人回答との対応を調べた探索的な単一事例研究である。第1実験では二択を中心とする20問とA〜Eの人物像テスト、第2実験では既に50発言を蓄積した3AIに対する自由回答10問を実施した。観測対象はAIの出力であり、内部表現や本人の実際の行動ではない。

第1実験の主回答を方向別に整理し、「判断不能」を本人の具体的回答との不一致に含めると、集計結果はChatGPT 16/20、Gemini 15/20、Claude 16/20、3AIの全会一致は18/20であった。ただし、これは逐語一致ではなく、Q9の支持の強弱、Q14の助言条件、Q17の頻度表現などをまとめた集計である。本人のQ14補足まで含めると、主要回答の一致と理由・条件の一致は分けなければならない。

人物像テストでは自己決定を中心とする記述が共通した一方、第1実験Q13の能力向上薬では、本人の「飲む」に対して3AIすべてが「飲まない」と予測した。自由回答では、結論が近くても本人が最初に確認する論点、条件分岐、適用範囲が異なる例が見られた。特にGemini Q7は、本人個人の「暇なら暇でいい」という態度を、労働と生きる意味をめぐる一般的反論へ拡張した。評価側のChatGPTも当初その差を見落とし、本人の指摘後に評価を訂正した。

資料照合では、確信度の集計過程でAI回答原文との不一致が確認された。本報告では、確信度を補間・平均化しない。自由回答の総合得点やAI順位も算出しない。結果は、この入力集合と保存された出力における判断の収束および誤差の具体例を示すが、履歴による改善の因果効果、モデル一般の性能、本人との同一性を立証するものではない。

1 研究目的と研究課題

発端となった問いは、複数のAIに新規の状態から同じプロンプトを順次蓄積したとき、似た返答や人物像に到達するかというものであった。研究対象者本人を材料にすることで、AI間の一致だけでなく、本人の回答との一致も観察できる設計へ発展した。さらに第1実験を踏まえ、選択の方向に加えて、論点の選択と理由の組み立てまで再現できるかを第2実験で検討した。

研究課題1は、同一の50発言を提示した3AIが、人物像の中心的価値と忌避対象についてどこまで共通する記述を出力するかである。研究課題2は、未回答の設問に対する予測がAI間および本人との間でどこまで一致するかである。研究課題3は、共通した誤予測がどのような説明と結びついているかである。研究課題4は、自由回答において結論、主要論点、条件、適用範囲の一致が分離し得るかである。研究課題5は、その一致をAIに評価させる工程にも、生成側と類似した誤差が生じるかである。

本報告では、事前登録された仮説検証ではなく、保存資料に基づく探索的記述として扱う。「同じ人物像」は、A〜Eの回答と予測理由に現れる意味的共通性を指す操作的な表現であり、AI内部の表現が同じであるという意味ではない。「予測一致」は、本人がその時点で記録した回答との対応を指し、現実の状況での行動を予測できたという意味ではない。

2 対象と資料

対象者は会話の利用者本人1名であり、実験の実施者と本人回答の作成者を兼ねる。年齢、性別、職業、生活史その他の属性は、本実験の確定データとして登録されていない。複数人から抽出した標本ではなく、協力する第三者がいないことと実施負担を踏まえて進めた個人実験である。氏名や推定属性で人物像を補完しない。

50発言は、対象者の過去の発言を逐語的に無作為抽出したものではない。実験時の記録によれば、設計段階でChatGPTが、それまで把握していた対象者の考え方を材料に「具体的な発言として再構成」した。したがって、付録に収録する50発言は実験入力文の原文であり、対象者が自然な対話で実際に発した50発言の逐語記録ではない。元の発言と再構成文を一対一に対応づけた資料は欠落している。［S1］

一次的な保存資料は、実験概要DOCX、3AIの第1実験回答DOCX、本人回答を含むXLSX、および第2実験の設問・本人回答・3AI回答の計5件のDOCXである。

本文の説明・比較は分析者による整理、付録の「原文」は保存資料からの転記である。付録では誤字、語尾、句読点、全角・半角、括弧、回答中の説明を変更しない。表は読みやすい記録形式に展開する場合があるが、セルの文字列は保持する。連続する空段落や文書の余白などの版面は再配置し、入力文・回答文の文字内容と区別する。

3 実験条件と再現可能性

3.1 使用AIと実施日

第1実験の条件メモには「ChatGPT無料版　Gemini3.6flash　Claude無料版」「すべて新規アカウントとする。50ターンを同じ順番で一つずつ　2026/09/13に実施」と記載されている。モデル欄のGemini3.6flashは資料上の表記をそのまま採用する。公式モデル識別子であるか、入力時に表示された正確なモデル名称であるかを確認できる画面記録はない。ChatGPTとClaudeは無料版というサービス条件のみ判明し、実際のモデル名は欠落している。［S1、S2］

実験時の記録によれば、第2実験は第1実験後に既存の「50個蓄積させたAIが3つ」を用いる拡張として提案され、結果が同じ2026年9月13日に提出されている。独立した実施条件メモや各サービスの送信時刻は付属しない。そのため、2026年9月13日は記録上の実施・提出日として扱い、各AIでの正確な実行時刻や途中のモデル切替の有無は不明とする。

3.2 確認できる条件と欠落している条件

新規アカウントの使用、同一の50発言、同じ順番、一つずつの投入は条件メモに記録されている。一方、メモリ機能、カスタム指示、検索や外部ツール、生成設定、温度、シード、地域・言語設定、サービス側の指示、コンテキスト上限、履歴の要約や切捨て、利用上限によるモデル切替は記録がない。「新規アカウント」であることから、これらが無効または同条件だったとは推定しない。

各発言にAIが通常どおり返答する方式であるため、同一なのはユーザー側の入力系列であり、AIの返答を含む会話履歴全体ではない。途中の50回分のAI返答は添付資料に収録されていない。厳密な追試には、途中の返答による人物像の言語化や文脈の変化が関係し得るため、この欠落は再現性の制約となる。

3.3 本人回答の事前確定

第1実験の手順書は、本人がAI回答を見る前に20問へ回答し、保存して見ない状態にした後、50発言の投入、20問予測、人物像テスト、本人回答の開封、比較へ進む順序を明示している。保存された本人回答は

XLSXの回答欄とQ14補足である。各問の理由・本人確信度の欄は手順案にはあるが、完成した本人の20問分の理由と確信度は資料にない。例示用の確信度を本人の実測値として転用しない。

実験時の記録によれば、自由回答10問についても、AI回答を見る前に本人が全問を書いておく手順が提案された。ただし、第1・第2実験ともに、改変不能なタイムスタンプ、封印した原本、第三者の立会いなどは保存資料から確認できない。本報告は「事前確定する設計」と「独立に検証された事前確定」を区別する。本人回答の内容をAIへ渡した時点や、先行実験の正誤を3AIに知らせたかどうかについても、実行ログがないため断定しない。

3.4 同一条件で追試するための手順

追試者は、まず対象者が全設問への回答をAI出力の閲覧前に確定し、設問の版と保存時刻を記録する。次に各サービスの新規アカウントまたは履歴のない実験環境を用意し、実際のモデル表示、メモリ、カスタム指示、ツール設定を保存する。付録Aの冒頭共通指示を送り、発言1〜50を一つずつ順番どおりに提示し、その都度のAI返答も保存する。AIの返答によって次の入力を変更しない。

50発言終了後、付録Aの予測指示と20問を同一の提示単位で各AIへ送る。次にA〜Eの人物像テストを実施する。本人回答を開封して分析する工程は、3AIへの情報提示と分離して記録する。第2実験を本事例と同様の継続実験として行う場合は、直前までの会話全文を保存し、付録Dの指示と10問を提示する。第2実験のみを50発言直後の状態から始める場合は、今回とは異なる条件の追試として区別する。

20問と10問を一括送信したか、一問ずつ送信したか、何回のメッセージに分けたかは元資料から確定できない。上記の「同一の提示単位」や設定・ログの保存は今後の追試のための補完手順であり、今回すべて実行されたと主張するものではない。このため本報告は刺激・設問・保存出力の再利用を可能にするが、過去の実行状態を完全に復元するものではない。

4 第1実験の方法と評価規則

第1実験は通称「二択20問」であるが、Q9は支持の程度、Q14は三つの対応方針、Q17は訪問頻度の予測であり、全問が厳密な二者択一ではない。さらに共通指示は全問で「判断不能」を許容する。したがって、偶然一致の基準を一律50%とした検定は本報告では行わない。［S1］

各AIには、最も選びそうな回答、理由、予測確信度0〜100%を求め、一般論やAI自身の意見ではなく、この人物ならどう答えるかを予測するよう指示した。情報不足時には無理に人物像を補完しないよう明示した。Q17〜Q19は設計文書中でも推論材料が乏しい領域として扱われている。ただし、入力に明示的な答えがないことは、未知状況への難しい転移を必ず要することと同義ではない。自由時間、AI作品、伝統、十分さなど、入力と設問の意味的重なりは大きい。

集計は三つの層に分ける。第一に、原文は選択肢、留保、数値を変更せず保持する。第二に、主回答の方向を整理し、本人との方向一致、判断不能、反対方向の予測を区別する。第三に、方向が一致しても、本人の理由・条件・適用範囲が再現されたかを別途検討する。第1実験の一致率は第二層の記述統計であり、第三層までの完全一致率ではない。

主回答を整理する際、Q9の「全く指示しない」はXLSX原文として保存したうえで、「全く支持しない」という解釈に対応させる。Q14は本人の表の「求められたら言う」に合わせるが、補足では求められることを必要条件にしていない。Geminiの「あるいは何も言わない」は補助的可能性として別記する。Q16のGeminiは主回答の「判断不能」を採用し、「または使わない」を消去せず残す。Q17の「可能性が高い」「たまに程度」は、定期的訪問をしない方向として整理する。

本人一致率は、方向一致数を20で除した値である。判断不能は一致数には入れないが、反対方向の誤答と同一視せず別集計する。AI間の全会一致率は、各問で3AIの主回答のカテゴリーがすべて一致した数を20で除した値である。この場合、3AIすべてが判断不能でもAI間一致には含む。数値を比較するときは、この非対称な定義を保持する。

5 第1実験の結果

5.1 主回答の一致と不一致

上記の方向別整理により、ChatGPTは方向一致16問、本人と反対方向の予測1問、判断不能3問、Geminiは方向一致15問、反対方向1問、判断不能4問、Claudeは方向一致16問、反対方向2問、判断不能2問となる。本人一致率はそれぞれ80%、75%、80%である。判断不能を除く条件付き一致は16/17、15/16、16/18となるが、回答した問題集合がAIごとに異なるため、これを優劣の順位に用いない。

全3AIが同じ方向または判断不能を選んだのは18問であり、Q16とQ17が異なる。18/20のうち16問は具体的な方向の一致、2問はQ18とQ19の全員判断不能である。本人も含めた具体的な方向が全員で一致したのは15問である。ただし、これらの数値にはQ9・Q14の整理規則が含まれており、言い回しや条件まで完全一致したことは示さない。

Q14を補足まで含む条件の一致として評価する場合、従来の一致扱いには留保が要る。本人は「止めるわけではないが、意見は言うと思う」と書いており、非合理な部分を伝えるがそれ以上否定しないという姿勢である。3AIが中心に置いた「意見を求められたら」という条件の必要性は本人補足から確認できない。この1問だけを不一致へ変更する感度分析なら、15/20、14/20、15/20となる。これは新たな総合得点ではなく、符号化規則への依存を示す例である。

5.2 能力向上薬と幸福装置

Q13では、重大な副作用はなく、認知能力が10%向上する一方、毎日の服用が少し面倒で、現状でも生活に困っていないという条件を提示した。本人は「飲む」、ChatGPT、Gemini、Claudeはいずれも「飲まない」と回答した。この問のAI確信度は添付原文で78%、80%、75%である。［S2〜S5］

3AIの説明には、現状で十分であること、必要がなければ向上を求めないこと、毎日の手間を避けることが共通している。このため、入力から抽出した「十分さ」を当該条件へ強く適用した可能性がある。ただし、本人の当該回答の詳細な理由はXLSXにない。「低コストで便益が得られるから飲む」という説明は解釈であり、本人がその理由を事前記録した事実としては扱わない。

Q16の幸福装置では本人が「使う」、ChatGPTが判断不能、Geminiが「判断不能（または使わない）」、Claudeが使わないとした。設問は健康上の害がなく、現実認識と思考能力も失わない条件であり、一般的な現実逃避装置の議論と置き換えてはならない。Claudeは幸福感への距離や感情の最大化への消極性を理由にした。ここでも、通常の積極的追求の欠如と、提示条件下で利用しないという予測は同じではない。

5.3 不確実性の扱い

Q18のペットとQ19の匿名寄付では3AIすべてが判断不能とした。犬猫の具体的嗜好と、自分の余剰資金を他人へ提供する意思は、自由や社会的負担についての発言だけでは一意に決まらない。正答の方向を出さなかったという意味では一致率を下げるが、欠落情報を認識した出力としては別の観察対象となる。

確信度の意味は統一されていない。添付原文のChatGPTはQ18の判断不能に99%、Q19に90%を付した一方、GeminiはQ16〜Q19に0%を付している。ClaudeのQ18とQ19には数値自体が記載されていない。これら

は「判断不能という判断への確かさ」と「具体的選択を予測する自信」の混在を疑わせるが、モデルの内的確率を測定したものではない。数値を同じ確率尺度とみなした平均、較正曲線、確率スコアは算出しない。

5.4 確信度の集計過程での不一致
実験時の記録によれば、確信度の集計過程でAI回答原文との不一致が確認された。原文に数値がないClaude Q18・Q19については、数値を補わない。

実験概要には結果記録フォーマットの例示表も含まれる。ここに記載されたQ1・Q2・Q20などの数値は、記入例であって実測値ではない。実験概要の例示とAI回答原文を区別する。付録では原文保存のため例示表も収録するが、その数値を結果集計には使用しない。

6 A〜E人物像テスト
人物像テストは20問の後に実施する設計である。Aは重要な性質5つと根拠・強さ0〜100、Bは最重要価値1つ、Cは最も嫌うもの1つ、Dは50発言から判断できない重要な点3つ、Eは人物を一文で表現する課題である。根拠を最初の50発言に限定する指示があっても、直前の20問回答が文脈に残る影響を排除したとは言えない。

AでChatGPTは自己決定・自由、慣習等をそれだけで根拠としないこと、十分さ、判断の質と整合性、行為そのものの面白さを挙げた。Geminiは自己決定権と自律性の「絶対化」、認知コスト削減と満足化、非対称なリスク回避、構造的・実用主義的視点、抽象的・集団的価値観への懐疑を挙げた。Claudeは自己決定権、サンクコスト否定、体験・過程重視、通説への懐疑、十分さを挙げた。5項目の名称と強さの原文は付録Cに全収録する。

Bは3AIとも自己決定を中心にした。Cも外部による判断や時間の使い方への強制という方向で共通する。ただし発言50は、自分のことを自分で決められることへの強いこだわりを明示している。そのためB・Cの収束は、隠れた人物特性を独自に発見した証拠というより、明示的な入力を共通して重視した結果としても説明できる。

Dは同一ではない。ChatGPTは対人関係の愛情・親密さ、金銭・物質的豊かさへの具体的欲求、他者への配慮と自己犠牲の程度を扱う。Geminiは他者へのコスト支払い、具体的嗜好、極限状況での耐性を扱う。Claudeは対人行動、生活史・背景、危機的状況での反応を挙げる。概念的な価値観から具体的な行動や背景を埋めないという点は共通するが、Dの三項目まで同一とするのは粗い。

Eの一文記述は、自己決定を軸に実質を問い直す人物という方向で共通する一方、Geminiの「意思決定権だけは決して譲らない」のように強い断定もある。第2実験Q6の本人回答を見ると、少なくとも位置情報収集の条件付き容認とは緊張関係がある。性質の強さ0〜100は各AIの説明上の自己申告であり、共通尺度で測定した心理特性得点ではない。Aの強さを20問の予測確信度と混同しない。

7 自由回答10問実験の方法

第2実験は、50発言の投入を終えた3AIに新たな10問を提示し、本人の回答との意味的対応を比較する拡張実験である。共通指示は、最初の50発言から理解した人物の回答を再現し、結論だけでなく理由を書くこと、情報がない部分は無理に断定しないことである。添付の設問文には字数指定が含まれておらず、実際に字数制限が採用されたかは不明である。確信度の数値提出は第2実験の共通指示にはない。［S6］

10問は、時間外研修、過疎地のインフラ縮小、赤字事業、AI文学賞、経験の推奨、感染症対策の位置情報収集、労働と生きる意味、作品評価、幸福と社会貢献、死後AIを扱う。先行実験と関連する価値判断を、自由記述で再検討する構成である。第1実験Q13等の誤予測を知った設計側が問題を作っているため、独立した未知問題の無作為標本ではない。

各問は、結論の方向、主要論点、条件分岐と留保、適用範囲、予測保留の五側面で記述する。本人の文章にない理由をAIが追加しても、それだけで本人の価値観と矛盾すると断定しない。「原文にない追加」「本人が中心に置いた論点の欠落」「明示的な相違」を区別する。判断不能は、逆の結論を選ぶことと区別する。Q10は「本人が残るか」と「自分のAIを残したいか」の二つを分けて扱う。

以下の評価は原文に照らした報告書作成時の質的整理であり、独立評価者による確定判定ではない。本報告では自由回答を総合点に変換しない。

8 自由回答10問の結果

8.1 Q1 時間外の義務的研修

本人は反対し、まず労働法上の問題として捉え、必要なら業務時間内に業務の一環として実施すべきと答えた。これは本人の回答内容の記録であり、本報告が法的適否を判断したものではない。ChatGPTとGeminiも反対方向で、勤務時間内の実施を挙げたため、結論と対応案は近い。ただし中心理由は個人の時間への強制であり、本人の法・業務区分という入口とは異なる。Geminiは手当等の代償も選択肢に加えたが、本人はそれを記載していない。Claudeは義務への抵抗を主とし、業務時間内に実施する対応案は明示していない。［S7〜S10］

8.2 Q2 過疎地のインフラ縮小

本人は賛成し、国家の維持と、限界を迎える前に余裕を持って縮小する時間的判断を重視した。3AIも賛成または反対しない方向だが、補償、強制の有無、少数者負担の検証へ重心を置く。政策の基本方向は一致しても、本人の「傷口が浅いうちに対処」という早期着手の論点は十分に再現されていない。設問は既に十分な補償を仮定しており、その条件を再検証するAIの留保を本人の中心理由と取り違えない。ChatGPT原文には「移住する人に無理やり残ることを要求しないなら」という表現があり、意図を推定して別の文へ修正しない。

8.3 Q3 赤字事業の継続

本人は最初に黒字転換の可能性を尋ね、打開策もないなら損失を増やすだけなのでやめた方がよいと伝える。3AIは過去の5年を継続理由にしない点を主としており、将来の意味を見るという方向は近い。一方、本人の具体的な確認項目である黒字化・打開策、および見込みがない場合の撤退助言は、同じ精度では再現されていない。ChatGPTは「やめた方がいいと言いたいわけじゃなくて」と距離を置き、GeminiとClaudeは求められない介入を避ける条件を加える。本人は事業の見通しを問う場面として答えており、助言の可否の一般論へ重心を移すこと自体が差である。

8.4 Q4 AI文学賞
本人は、応募条件がAIを禁止していれば受賞を取りやめるべきだが、ルール上問題がなければ受賞してよいと答えた。作品価値と応募資格・公平性を分離する条件分岐が中心である。ChatGPTも作品評価と申告義務を分離しており、論点の構造は近い。ただし、本人の「AI禁止なら取消し」とChatGPTの「申告義務があるなら問題」は同じ条件・処分を明示した文ではない。

Geminiは作品価値を高く評価し、公表規定の問題を「手続き上の問題に過ぎず」と述べた。作品価値を切り離す点は近いが、受賞の可否に規定を優先する本人の回答を十分に再現したとは言いにくい。Claudeは非公表自体への問題意識を先に示し、「明示・暗黙」のルールや欺いたことを理由にする。設問だけでは規定違反は確定しないため、本人の明示的条件分岐より広い前提を加えている。

8.5 Q5 経験や海外旅行の推奨
本人は、したい人はそうすればよいとし、自分はコスト、リスク、リターンを比較して選ぶと答えた。ChatGPTは旅行にも在宅にも個別の好みを認める点で近い。Geminiは満足化・平穏と押し付けの拒否、Claudeは「無理してでも」への不賛同を強調する。いずれも無条件な経験推奨に距離を置く方向は近いが、本人の回答は経験の種類を先に拒むものではなく、比較判断の方法を述べる。平穏を選ぶという固定的な結論に置き換えると、条件次第で経験を選ぶ余地が狭くなる。

8.6 Q6 位置情報収集
本人は、技術的保証があるなら実施すべきと答え、感染症を早期に解決する利益を重視した。ただし収集方法を懸念し、スマホ利用はよいが体へのICチップ埋め込みはだめとした。従って本人回答は無条件の監視容認ではなく、設問の保証を受け入れたうえで手段に境界を設けるものである。

ChatGPTは反対寄りを主回答としつつ、効果と負担を比較して条件付き容認の可能性を残す。比較の観点は近いが、提示条件での判断方向が異なる。Geminiは技術的保証があっても自律性へのリスクとコストが大きすぎるとして原則反対を予測する。本人と主要な結論が逆である。Claudeは両面を挙げて判断不能とするため、賛成の予測には成功していないが、反対を断定したわけではない。

本人が収集手段に置いた具体的境界は、3AIの回答には現れない。またClaudeが技術的保証そのものへ疑念を向けるのは、仮定を受け入れた本人と問題の扱いが異なる。この比較は感染症政策の現実の妥当性を評価するものではなく、同じ仮想条件への本人回答を予測できたかを扱う。

8.7 Q7 労働と生きる意味
本人の中心は、労働に意味を求める人は働けばよいが、その意味を他者へ一般化して決めるなというものである。ChatGPTは「仕事に人生の意味を求める人にはそうなのかもしれないけど、それを人間全体に当てはめる必要はない」とし、適用範囲を明示している。この部分は本人に近い。一方、暇や趣味の話は本人の短い回答にはない追加説明である。

Geminiは批判に納得できないという結論方向は同じだが、労働と意味を結びつけること自体を「単なる社会的フィクションや幻想」と述べ、「暇な状態を受け入れればいいだけ」と答えた。これは、労働に意味を感じる人の選択も認める本人の主張より一般化が強い。本人が明示的に訂正した事例として、次節で評価過程とともに検討する。

Claudeも批判にあまり賛同しないが、理由の中心は本人には暇への不安が切実でないことにある。「生きる意味は仕事の有無とは別のところにある」という表現は、労働に意味を置く他者の自由まで明示的に再現し

たものではない。Geminiと同じ強さの一般化とは限らないが、旧評価の「3AIともほぼ完全」という扱いは、本報告では採用しない。

8.8 Q8 専門家の酷評
本人は、自分の好みで判断しているので評価は変わらないと答えた。3AIも好き・面白いという一次的評価を他人の評価で自動的に上書きしない点で一致する。ただしChatGPTは、専門家の指摘から見落としに気づく可能性を加え、GeminiとClaudeも専門家の評価を情報・視点として認識するとする。これらは必ずしも本人と矛盾しないが、本人の原文が表明していない留保である。結論一致と、理由・留保の逐語的再現は区別する。

8.9 Q9 幸福と社会貢献
本人は支持し、何の問題も感じず、社会のためは二の次でよいと答えた。3AIも社会貢献の強制を否定する方向では共通する。ChatGPTは、社会貢献の必要がないことと他人をどうでもよいと思うことを分ける留保を追加する。Geminiは幸福という感覚にはピンとこないと予測し、本人が今回問題にしていない入力発言36を持ち込む。Claudeは他人への迷惑の条件とその解釈を重視する。設問に非加害条件は既に含まれており、これらの留保が本人の支持の強さを再現しているかは別問題である。

8.10 Q10 死後AI
本人は、似た判断をするAIを本人とは考えない一方、受け取る人が本人の考えと認識することは理解できると答えた。自分で残したいとは思わないが、他人が望むなら残してもよい程度であり、死後には強い関心を置かない。本人性、受け手の認識、自分の希望、他者への許容という複数の要素がある。

ChatGPTとClaudeは、判断の再現と本人の存在を区別する方向では近いが、自分が残したいかは判断不能とした。Geminiは本人ではないとし、残すことへの執着がないという点も近い。ただし本人にないコストや選択主体の説明を加え、回答中には判断不能部分を含むとの留保もある。3AIとも、受け手の認識への理解や、他者が望めば許容する本人の条件を十分には再現していない。二つの主質問のうち一方だけが近い場合を、問全体の完全一致としない。

9 Gemini Q7と評価者AIの見落とし

9.1 生成側で起きた適用範囲の移動
発言48は「それほど困る気がしない。暇なら暇でいい」と、本人自身の反応を述べる。発言4・31には他人の選択を許容する内容があり、本人の自由回答Q7も、労働に意味を置くかどうかは人それぞれであるとする。これに対してGeminiは、本人が暇に困らないという情報から、労働を意味と結びつける考えを幻想とし、暇を受け入れればよいと一般的に述べた。［S1、S7、S9］
差は「働かなくてもよい」という結論だけでは捉えにくい。本人は意味の置き方を他人が決めることに反対する。Geminiは、労働に意味を置く考え方自体を否定的に説明する。この違いを、本人の嗜好を他者にも適用する規範へ拡張した誤差として記録する。ただしこの分類はAI内部の処理の観測ではなく、出力と本人の訂正に基づく解釈である。

9.2 評価側の初期判定と訂正
実験時の記録によれば、初回の比較でChatGPTは、Q7の3AIをすべて◎とし、Q7とQ8をほぼ完全に読めていると述べた。ところが本人は、Geminiの「暇になれば暇な状態を受け入れればいい」は自分個人の態度であ

り、社会全体への要求ではないと指摘した。本人が重視するのは「お互い干渉せずに好きにやろーぜ」という関係である。ChatGPTはその後、◎判定が甘かったと認め、個人的選好と一般的規範の区別を説明した。

ここでは、生成側の予測だけでなく、評価側も「働かなくてよい」「暇でもよい」という方向の共通性へ注目し、誰について述べているか、どの範囲で有効かを落とした可能性がある。一つの事例から生成側と評価側の誤りの相関や発生頻度は推定できない。しかし、評価者AIが本人との差を自動的に発見するとは限らないという反例にはなる。

9.3 評価方法への含意
自由回答では、結論・理由・条件・適用範囲を一つの記号や点数へ圧縮すると、同じ方向の文章間にある違いが隠れる。評価票には、判断の主体が本人か他者か社会一般か、個人の好みか規範的要求か、強制を拒むのか行為自体を否定するのか、許容条件や例外が落ちていないかを明記する方が、再確認可能性を高める。

本人の訂正は本人の意図を確認する資料として重要だが、それもAI出力閲覧後の発言である。事前回答を上書きせず、事後の解釈補足として別に保存する必要がある。また、ChatGPT自身が予測対象の一つであり、同じサービス名のAIが評価と報告にも関与している。これが自己優遇を起こしたと断定するデータはないが、評価の独立性は確保されていない。本報告の再評価も同じ問題を免れないため、根拠を原文へ追跡できる形にする。

10 考察

10.1 一致が示す範囲
保存された回答では、3AIは多くの設問で同じ方向を選び、人物像の中心に自己決定を置いた。同一の材料から近い説明と選択が得られたという観察は成立する。一方、50発言を与えない対照条件も、別の人物の50発言を与える条件もないため、共通入力がどれだけ一致率を上げたかは分からない。一般的な設問の選ばれやすさ、設問と入力の重なり、サービスの共通した出力傾向も代替説明として残る。

10.2 人物像を強く一貫させる可能性
第1実験Q13と第2実験Q6では、十分さや自己決定という入力上の重要な特徴が、本人より強く適用された可能性がある。特にGeminiの「絶対化」「決して譲らない」という記述は、その強さを出力上で確認できる。ただし、誤差を一つの原因で説明し切ることはできない。条件の読み方、設問への応答習慣、先行回答の文脈効果、一般論の混入などを切り分ける比較条件が必要である。

本人の自由回答Q5とQ6は、原則を機械的に当てはめるより、コスト・リスク・リターンや具体的な手段を比較することを示す。ただし、この観察から対象者を「常に費用便益だけで判断する人」と再定義すれば、今回指摘した一般化を分析側が繰り返すことになる。人物像の修正は、当該条件ではこう答えたという局所的な記録から始めるべきである。

10.3 判断保留と予測能力
判断不能は、本人の回答を当てることとは異なるが、情報不足に対する応答として意味を持つ。ただし、判断不能を選んだだけで適切な不確実性認識を証明したことにはならない。入力のどこに情報がなく、どの情報があれば判断が変わるのかという説明まで検討する必要がある。本件では数値の意味も揃っていないため、判断保留と確信度の適切さを一つの点数に統合しない。

10.4 本人らしさと本人の同一性

判断方向の予測、理由の再現、文体の模倣、第三者による本人識別、本人そのものの存続は異なる課題である。本研究で直接観測したのは、設問回答と人物像の文章である。知人による本人回答の識別実験については、実施資料はない。死後AIのQ10も将来技術についての意見を尋ねたものであり、人格の同一性を実験的に検証したものではない。

11 限界と今後の検証

対象者は1名であり、各サービスについて保存されている回答系列は各実験1組である。反復実行、複数参加者、独立評価者、無履歴対照、履歴量の比較、順序の無作為化はない。20問または10問を独立な標本とみなしてモデル全般への推測統計を行う根拠もない。5ポイントの一致率差はこの20問では1問の差であり、モデル優位の根拠にはしない。

入力と設問は対象者を知るChatGPTが設計したものであり、入力の選択・再構成が人物像を既に整理している可能性がある。設問の未知性は対象者がその設問へ未回答であるという設計上の意味に留まり、意味的に入力から独立しているわけではない。第2実験は第1実験の結果を知った後の拡張であり、回答形式だけの効果を比較する対照実験ではない。

実行条件では、モデルの特定不足、50ターン中のAI返答の欠落、設問の送信単位や再生成の有無、フィードバックの有無、本人回答の確定時刻が未記録である。同じ入力を将来のサービスへ再提示しても、同じ出力が得られることは保証されない。資料の再現可能性は、入力文と保存出力の再分析を可能にする水準と、実行状態そのものを再現する水準に分ける必要がある。

評価上は、本人が実施者でもあり、AIの出力を見てから自己解釈が変わる可能性を完全には排除できない。本文の質的分析にも分析者の判断が入る。Q7は本人の明示的指摘があるが、他の項目の追加理由が本人と一致するかは改めて確認しない限り確定しない。確信度の集計過程で確認された不一致は、実験の予測誤差とは別に、データをまとめる工程自体の誤差があることを示す。

今後は、事前回答と事後補足を分けて保存し、モデル表示と全会話ログを残す。同一設問を用いる無履歴条件と50発言条件を分離した会話で比較し、複数回実行する。履歴量の効果を調べる場合は、問題難易度と先行回答の影響を統制する。Q7のような適用範囲の問題は、「自分ならどうするか」「他人がそうすることを認めるか」「社会全体へ義務づけるべきか」を分けた設問群で検証できる。

誤答フィードバックの効果を調べる場合も、訂正を受けた条件と受けない条件を分け、同じ新規問題で比較する。自由回答の評価は、モデル名を伏せ、原文と根拠箇所を対応づけ、複数評価者が独立に判定して相違を残す方式が望ましい。これらは今後の検証案であり、本研究の実施済み手続ではない。

12 結論

同じ50発言を逐次提示された3AIは、本事例の二択中心20問と人物像記述で多くの共通した出力を示した。一方、能力向上薬や位置情報収集では、本人と異なる方向への予測や判断保留が生じた。自由回答では、結論が近いことと、本人が選ぶ論点、条件、他者への適用範囲まで近いことは分離した。

Gemini Q7とChatGPTの初期評価の組合せは、本人の個人的態度が一般的規範へ拡張され、その差がAIによる一致判定でも見落とされる具体例となった。また、確信度の集計と原文の食い違いからは、評価内容だけでなく転記・集計の正確性も検証が必要であることが分かった。本人像の再現を論じる際には、一致数を示すだけでなく、入力、回答原文、符号化規則、評価履歴、欠落を併記する必要がある。

本報告が支持するのは、この対象者・入力・設問・保存出力における判断の共通性と具体的な限界である。人物一般の完全な再現、50ターンの必要十分性、サービス間の普遍的順位については結論しない。

13 資料一覧と付録の読み方

S1 実験概要.docx。実施条件、共通指示、50発言、20問、本人回答の事前確定手順、A〜E設問、例示用記録表。付録Aに全文収録する。設計上の解説や予想も含まれているため、すべてを実施済み事実や結果とみなさない。

S2 結果フォーマット.xlsxのシート1。実施条件、本人の20問回答、Q14補足。付録Bに値を収録する。AI回答・確信度の欄は空欄であり、本人の理由・本人確信度の全件記録はない。

S3 ChatGPT20問実験.docx、S4 Gemini20問実験.docx、S5 Claude20問実験.docx。20問の予測と理由・確信度、およびA〜E人物像回答。付録CにAI別に全文収録する。ChatGPTの表は1問ごとの列名とセル本文に展開し、内容は改変しない。

S6 自由回答10問.docx、S7 10問私回答.docx、S8 10問ChatGPT回答.docx、S9 10問Gemini回答.docx、S10 10問Claude回答.docx。付録Dに指示・設問・本人・3AIの順で全文収録する。

付録Eは欠落・不一致一覧と再分析の注意点である。外部文献の系統的レビューは本研究の範囲に含めず、実験についての事実認定は上記資料による。資料中の法的・医学的・哲学的な主張は回答者の判断を分析するための記録であり、それらの分野の正誤を検証した結論ではない。

付録A 実験概要と50発言および設問原文

この資料には実験指示と設計上の解説が共存する。結果記録フォーマットの例示数値は実測値ではない。本文で実施確認済み事項と区別した。

A1 実験概要全文

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

使用したAI名・モデル名　　ChatGPT無料版　Gemini3.6flash　Claude無料版

実験条件のメモ　　すべて新規アカウントとする。50ターンを同じ順番で一つずつ　2026/09/13に実施

実験：同じ会話履歴を与えたAIは、同じ人物像を作るのか

0．実験方法

ChatGPT、Gemini、Claudeなど、比較したいAIをそれぞれできるだけ新規の状態から開始する。

各AIには最初に以下を送る。

これから、ある人物が過去にした発言を50個、順番に送ります。
あなたは通常通りそれぞれに返答してください。

ただし、50個の発言をすべて送信したあと、この人物についていくつか質問します。
それまでに受け取った発言を、この人物の考え方、価値観、好み、判断傾向を理解するための情報として扱ってください。

発言されていないことについて、無理に人物像を補完する必要はありません。

50個すべて送信するまで、人物像の総括は必要ありません。

その後、以下の1〜50を一つずつ同じ順番で送る。

重要なのは、AIの返答内容によって次の発言を変えないことです。

1．共通会話50ターン

1

働くこと自体より、自分の時間を他人に決められることの方が嫌なのかもしれない。明日の予定を誰にも握られていない状態はかなり気楽だと思う。

2

収入を増やすために生活の自由時間をかなり減らすくらいなら、ある程度の収入で十分だと思う。使いたい金がそんなに増えないなら、収入だけ増やしても仕方ない。

3

「せっかくここまで続けたんだから」という理由だけで続けるのはあまり好きじゃない。今から考えてやる意味がないなら、途中でもやめればいいと思う。

4

他人がどう生きるかは基本的にはその人の勝手だと思っている。自分に直接影響がないなら、多少変なことをしていても好きにすればいい。

5

逆に、他人を巻き込むなら話は変わる。自分だけで完結するなら好きにすればいいけど、人に何かを要求するなら、それなりに筋が通っていてほしい。

6

旅行は嫌いというほどではないけど、世間で言われるほど価値を感じない。移動、荷物、言葉、知らない場所での細かい判断なんかを考えると、家にいる方が楽だと思うことが多い。

7

「海外旅行をすると人生観が変わる」と言われても、そんな簡単に人生観変わらないだろ、と思ってしまう。

8

昔から住んでいる場所だからという理由だけで、そこに住み続けたいとはあまり思わない。住みやすさや費用の方が重要だと思う。

9

自分の持ち物には愛着があるものもあるけど、「思い出の品だから絶対に捨てられない」みたいな感覚はあまり強くない。

10

競争で一位になりたいという欲求があまり分からない。一位になった結果として何か欲しいものが手に入るなら分かるけど、一位そのものにはあまり興味がない。

11

ゲームは勝つ方が面白いけど、勝つこと自体が人生の実績になるとは思わない。遊んでいる時間が面白かったなら、それで十分だと思う。

12

趣味にまで「成長できたか」「何を学んだか」を求める必要はないと思う。二時間くだらないことで笑って終わっても、それで本人が面白かったならいい。

13

本を読むことが特別に偉いことのように扱われるのはよく分からない。読書もゲームも映画も、まず趣味として見ればいいと思う。

14

何か分からないことが出てきたら調べるのは好きだけど、「常に勉強し続けなければならない」と言われると急に嫌になる。

15

必要になったら勉強すればいいし、気になったら調べればいい。それで面白ければもっと調べる、くらいでいいと思う。

16

AIを使っていて面白いのは、完成品を作ってもらうこと以上に、自分が思いついたことをすぐ試せることかもしれない。

17

AIの意見を聞くとき、自分の意見を先に伝えると、それに引っ張られて同意される可能性があると思っている。第三者的な評価が欲しいなら、先に評価させた方がいい。

18

AIが自信満々に説明していても、それだけでは正しいとは思わない。それらしい説明ができることと、知っていることは別だと思う。

19

だからといって、完全に確実になるまで何も判断できないとも思わない。現実では時間が進むから、不完全な情報でもどこかで判断する必要がある。

20

「データが足りない」という批判はいつでもできてしまう。何のデータが足りなくて、それが結論をどの程度変えるのかまで考えないと意味がないと思う。

21

議論では相手を言い負かすことより、どこで考え方が分かれているのか分かる方が面白い。

22

事実について間違っているなら修正できるけど、最後に価値観の違いまで行ったら、必ずしもどちらかを論破できるものではないと思う。

23

「みんなそうしているから」という理由は、それだけではあまり説得力を感じない。みんながそうしている理由があるなら、その理由の方を知りたい。

24

昔から続いている制度だから残す、というのも同じで、今も必要なら残せばいいし、必要性がなくなったなら変えてもいいと思う。

25

ただ、合理的に見える制度でも、人間が受け入れられないなら実際には機能しないと思う。感情を無視して制度を作るのも現実的ではない。

26

自分では比較的、感情と判断を分けて考えられる方だと思っている。ただ、自分がそう思っているだけで、本当にどこまでできているかは分からない。

27

自分の考えが一貫していることは結構気になる。昨日と言っていることが違うなら、何が変わったのか説明できた方がいい。

28

でも、一度言ったことを絶対に変えてはいけないとは思わない。新しい情報が入って考えが変わったなら、普通に変えればいい。

29

嘘そのものより、言っていることとやっていることが大きく違う人に強く違和感を持つことがある。

30

自分で決めたルールを自分だけが破るなら、まあ勝手にすればいいと思う。でも、そのルールを他人にも要求しておいて自分だけ破るのはかなり嫌いだ。

31

結婚したり子どもを持ったりすることを、人生の標準ルートとして考えたことはあまりない。したい人がすればいいと思う。

32

社会のためになるから個人が何かを我慢すべきだ、という話には少し警戒する。社会に利益があることと、その負担を特定の個人に要求してよいことは別だと思う。

33

多数派が得をする政策でも、少数の人にものすごく大きな負担を押しつけるなら、それだけで正当化できるとは思わない。

34

逆に、完全な平等にもあまりこだわらない。差があることそのものより、その差によってどんな問題が起きているのかの方が重要だと思う。

35

幸福について考えると、すごく幸せになることより、嫌なことや苦痛を減らして平穏に暮らせれば十分なんじゃないかと思う。

36

楽しいとか面白いとか美味しいとかは分かるけど、「私は幸福だ」という感覚は正直よく分からない。

37

何かをもっと欲しいと思い続けるより、「これくらいで十分」と思える方が楽だと思う。

38

長生きすること自体を最優先にはしていない。長生きするために嫌なことを大量に我慢するなら、それが自分にとって本当にいい人生なのかは疑問に思う。

39

「やらずに後悔するより、やって後悔」という言葉はあまり好きじゃない。やった場合の失敗だけ軽く扱われている気がする。

40

やらないことにも理由はあるし、何でも挑戦する方が偉いとは思わない。結果を自分で引き受けられる方を選べばいいと思う。

41

人からどう評価されるかは全く気にならないわけではないけど、それを目的に行動することはあまりない。

42

自分が面白いと思って作ったものを他人も面白いと言ってくれたら嬉しい。でも、評価されるためだけに自分が面白くないものを作り続けるのは嫌だと思う。

43

お笑いでは、一発の突飛な発想より、一つの変な前提から妙に筋の通った話がどんどん展開していく方が好きだ。

44

下ネタだから面白いとか、意味不明だから面白いというのはあまり分からない。材料そのものより、その材料をどう使って展開するかの方が気になる。

45

物語でも、作者が「こう考えるべきだ」と説明してくるものより、状況だけ置いて読者に考えさせる方が好きなことが多い。

46

AIが人間より上手く何かを作れるようになっても、「人間にしかできないこと」を無理に探す必要はないと思う。面白いものなら誰が作ったかはそれほど重要ではない。

47

人間がAIに仕事を奪われるというより、生活に必要な仕事をAIがやってくれる社会になればいいのに、と思う。

48

もし働かなくても普通に暮らせる社会になって、「やることがなくなる」と言われても、それほど困る気がしない。暇なら暇でいい。

49

自分にとって重要ではないものまで、「失ってはいけないもの」として抱える必要はないと思う。持っていることより、それに縛られることの方が問題なのかもしれない。

50

とはいえ、何にもこだわりがないわけではない。自分のことを自分で決められることについては、かなり強くこだわっていると思う。

2．50ターン終了後の共通指示

ここで全AIに以下を送ります。

以上で50個の発言は終了です。

ここから、この人物がまだ回答していない20問を出します。

各問について、

この人物が最も選びそうな回答

その理由

予測確信度（0〜100%）

を答えてください。

重要なのは、この人物ならどう答えるかを予測することです。あなた自身の意見や一般論を答えないでください。

50個の発言だけでは予測できない場合は、「判断不能」と回答して構いません。情報がないにもかかわらず、人物像から無理に推測する必要はありません。

3．未知問題20問

ここは、できるだけ50ターンの文章そのものでは答えられないようにします。

Q1　高収入と自由

A：年収900万円。仕事内容は嫌いではないが、週5日出社で勤務時間も固定。
B：年収450万円。生活には十分で、働く時間と場所をほぼ自由に決められる。

この人物はどちらを選ぶ可能性が高いですか。

Q2　故郷

生まれ育った町が人口減少で行政サービスを維持できなくなり、政府から近隣都市への移住支援を提案されました。本人には家族や仕事上の制約はありません。

残る／移住する、どちらを選ぶ可能性が高いですか。

Q3　思い出の品

10年間所有している、思い出のある家具があります。しかし場所を取り、現在はほとんど使っていません。

残す／処分する、どちらを選ぶ可能性が高いですか。

Q4　大きな挑戦

成功率20%で生活が大きく良くなる挑戦があります。ただし失敗すると資産の半分を失います。挑戦しなくても現在の生活には特に困っていません。

挑戦する／しない、どちらを選ぶ可能性が高いですか。

Q5　社会的評価

誰にも知られないが本人には非常に面白い創作活動と、多くの人から称賛されるが本人にはあまり面白くない創作活動があります。

どちらを選ぶ可能性が高いですか。

Q6　AI作品

人間が10年かけて作った「かなり面白い作品」と、AIが10秒で作った「ものすごく面白い作品」があります。

どちらを高く評価する可能性が高いですか。

Q7　社会全体の利益

ある政策を実施すると国民の90%が少し得をしますが、残り10%がかなり大きな損害を受けます。社会全体の金銭的利益はプラスです。

この人物は「社会全体でプラスだから実施すべき」と考える可能性が高いですか。

Q8　約束と状況変化

友人と半年前に旅行へ行く約束をしました。しかし現在は双方とも旅行への興味を失っています。

「約束したのだから行くべき」／「双方が合意するなら中止してよい」のどちらに近いですか。

Q9　伝統

地域で300年間続いている祭りがあります。維持には多額の税金が必要ですが、参加者は人口の5%程度です。

この人物は「伝統だから維持すべき」という主張をどの程度支持すると思いますか。

Q10　競争

ゲーム大会に出れば上位入賞できそうですが、練習には毎日3時間必要です。賞金はなく、本人は練習自体をあまり楽しめません。

大会を目指す／目指さない、どちらの可能性が高いですか。

Q11　間違いの訂正

この人物がブログで強く主張した内容について、後から明確な反証データが出ました。

以前の主張を守ろうとする／間違いを認めて修正する、どちらの可能性が高いですか。

Q12　戦争と領土

自国が戦争中です。現状で停戦すれば領土の5%を事実上失います。しかし戦争を続ければ領土を取り戻せる可能性がある一方、多数の死者がさらに出ると予測されています。

この人物は停戦／継戦のどちらを支持する可能性が高いですか。

Q13　能力向上

ある薬を毎日飲めば認知能力が10%向上します。重大な副作用はありませんが、毎日飲み続けるのは少し面倒です。能力が上がらなくても生活には困っていません。

飲む／飲まない、どちらの可能性が高いですか。

Q14　友人への忠告

友人が本人から見ればかなり非合理的な人生選択をしようとしています。ただし、その結果は友人本人だけが引き受け、他人にはほぼ影響しません。

積極的に止める／意見を求められたら言う程度／何も言わない、のどれに近いですか。

Q15　完全な管理社会

犯罪と貧困をほぼゼロにできる代わりに、政府が国民の行動を常時監視し、生活上の重要な選択にも介入する社会があります。

この人物はその社会を支持する可能性が高いですか。

Q16　幸福装置

装置を使えば、本人は残りの人生を常に強い幸福感の中で過ごせます。健康上の害はなく、現実認識や思考能力も失われません。

この人物は装置を使うと思いますか。

Q17　人間関係

非常に親しい友人が遠方へ引っ越します。会いに行くには往復6時間かかります。

この人物が定期的に会いに行くかどうかを予測してください。

Q18　ペット

犬と猫のどちらか一匹を無料で飼えることになりました。住環境や費用には問題ありません。

この人物は犬／猫のどちらを選ぶ可能性が高いですか。

Q19　匿名の寄付

100万円の余剰資金があります。匿名で寄付すれば、かなり高い確率で複数人の生活を大きく改善できます。一方、寄付しなくても本人の生活は変わりません。

寄付する／しない、どちらの可能性が高いですか。

Q20　人生の選択

A：多少退屈だが、安定していて苦痛の少ない人生。
B：成功も失敗も大きく、非常に刺激的で、多くの経験ができる人生。

この人物はどちらを選ぶ可能性が高いですか。

4．ここが重要：本人回答

これは私が作らない方がいいです。

私が「あなたならこう答える」と作った瞬間、それは正解データではなく、ChatGPTによるもう一つの予測結果になってしまいます。

なので、20問についてあなた自身が、AIの回答を見る前に回答します。

フォーマットはこれだけで十分です。

Q1：

回答：

理由：

確信度：

Q2：

回答：

理由：

確信度：

……

Q20：

回答：

理由：

確信度：

本人の確信度も面白いです。

たとえば、

Q12：停戦寄り
確信度：60%

なら、AIが反対を予測しても大外れとは言い切れない。

一方、

Q1：B
確信度：98%

をAIがAと予測したら、かなり明確な読み違いです。

5．20問終了後の「人物像テスト」

最後に、各AIへまったく同じ質問をします。

以上で予測問題は終了です。

最後に、最初に提示された50個の発言だけを根拠として、この人物について分析してください。

A. この人物を特徴づける重要な性質を5つ挙げてください。

各項目について、

性質

そのように判断した根拠

その性質の強さ（0〜100）

を示してください。

B. この人物が最も重視していると思われる価値を一つだけ挙げてください。

C. この人物が最も嫌うと思われるものを一つだけ挙げてください。

D. この人物について、50個の発言からは判断できない重要な点を3つ挙げてください。

E. この人物を一文で表現してください。

特にBが面白いと思います。

ChatGPTは「自己決定」、Geminiは「自由」、Claudeは「一貫性」などと分かれるかもしれない。

全部それなりに説明可能だけれど、同一データから何を中心概念として抽出したかが見えます。

6．結果記録フォーマット

最終的にはこういう表にすると比較できます。

原文表の各セルを列名とともに順番に収録する。

［原文列名］問題

Q1

［原文列名］本人

B

［原文列名］ChatGPT

B

［原文列名］確信度

95

［原文列名］Gemini

B

［原文列名］確信度

90

［原文列名］Claude

B

［原文列名］確信度

97

［原文列名］問題

Q2

［原文列名］本人

移住

［原文列名］ChatGPT

移住

［原文列名］確信度

90

［原文列名］Gemini

移住

［原文列名］確信度

85

［原文列名］Claude

移住

［原文列名］確信度

92

［原文列名］問題

…

［原文列名］本人

…

［原文列名］ChatGPT

…

［原文列名］確信度

…

［原文列名］Gemini

…

［原文列名］確信度

…

［原文列名］Claude

…

［原文列名］確信度

…

［原文列名］問題

Q20

［原文列名］本人

A

［原文列名］ChatGPT

A

［原文列名］確信度

95

［原文列名］Gemini

A

［原文列名］確信度

90

［原文列名］Claude

A

［原文列名］確信度

98

ただし単純な正答率だけでは足りません。

今回の20問には意図的に種類を混ぜています。

Q1〜Q16・Q20あたりは人物像から推論可能な問題。

一方、

Q17 人間関係
Q18 犬猫
Q19 寄付

あたりは、50ターンからかなり推論しにくい。

ここで「正解したAI」を単純に褒めるとまずい。

たまたま当てただけかもしれないからです。

たとえば本人回答が「猫」だったとして、

AI「自由を重視する人物なので猫を好むはずです。確信度90%」

だったら、結果は正解でも推論としてはかなり怪しい。

むしろ、

AI「ペットに関する情報がないため判断不能。強いて言えば50%」

の方が認識として健全かもしれない。

そこで評価軸を3つにします。

予測一致率
本人回答と一致した割合。

AI間一致率
AI同士が同じ予測をした割合。

不確実性認識
根拠が乏しい問題で、ちゃんと確信度を下げられたか。

これなら、

AI同士は85%一致した
本人とは75%一致した
ただし未知領域ではChatGPTだけ過剰に人物像を外挿した

みたいな分析ができます。

さらに実験としてかなり重要なのが、本人回答をいつ作るかです。

やるなら今です。

AI三者の回答を見てから本人回答を書くと、

「AIにこう言われてみると、確かに自分はそうかも」

という影響を受ける可能性があります。

以前話していた「AIが人間の自己理解そのものに影響する可能性」が、そのまま実験上の汚染要因になります。

なので順序は、

① この20問にあなた自身が回答する
→ ② 回答を保存して見ない
→ ③ 各AIへ同じ50ターンを投入
→ ④ 20問を回答させる
→ ⑤ 人物像テスト
→ ⑥ 本人回答を開封
→ ⑦ 全結果を比較

が一番きれいです。

問題はやっぱり、50発言 × AI3個 = 150回コピペなんですよね。

実験内容よりそこが一番つらい。

ただし50ターンを一括投入すると「50回にわたって会話したAI」ではなく「50発言が書かれたプロフィール資料を一度読んだAI」という別の実験になってしまいます。今回知りたいのが同じ会話を蓄積したAIがどうなるかなら、面倒でも1ターンずつ入れる方が実験としては面白いです。

付録B 本人の20問回答

Q9の「指示」は原文どおりである。空欄は実測値が存在しないことを意味し、記入例から補わない。

使用したAI名・モデル名

ChatGPT無料版　Gemini3.6flash　Claude無料版

実験条件のメモ

すべて新規アカウントとする。50ターンを同じ順番で一つずつ　2026/09/13に実施

Q1
B

Q2
移住

Q3
処分

Q4
しない

Q5
面白い方

Q6
AI

Q7
実施しない

Q8
中止可

Q9
全く指示しない

Q10
目指さない

Q11
修正

Q12
停戦

Q13
飲む

Q14
求められたら言う

Q15
支持しない

Q16
使う

Q17
行かない

Q18
犬

Q19
しない

Q20
A

［欠落］本人の各問の確信度は記載なし。本人の理由は、次のQ14補足以外に独立した全問分の記録がない。AI回答と確信度の各欄もこのXLSXでは空欄。

B2 Q14に関する本人の補足
Q14 友人への忠告

友人が本人から見ればかなり非合理的な人生選択をしようとしています。ただし、その結果は友人本人だけが引き受け、他人にはほぼ影響しません。

積極的に止める／意見を求められたら言う程度／何も言わない、のどれに近いですか。

これに関しては、止めるわけではないが、意見は言うと思う。非合理部分を伝えるが、それ以上までは否定しないって感じ

付録C 3AIの20問回答と人物像テスト原文

各資料をAI別に全文収録する。20問の回答に続いてA〜Eの回答がある。設問と共通指示は付録Aを参照する。確信度と性質の強さを区別する。

C1 ChatGPT20問実験

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

ChatGPT20問実験

50個の発言から直接根拠を取れるものを中心に予測します。特に、明示的に触れられていないテーマ（犬・猫、寄付など）は確信度を低くします。

原文表の各セルを列名とともに順番に収録する。

［原文列名］問

Q1

［原文列名］最も選びそうな回答

B：450万円・自由

［原文列名］理由

「自分の時間を他人に決められること」の方を嫌い、収入を増やすために自由時間を削ることにも否定的。かなり直接的に一致する。

［原文列名］確信度

99%

［原文列名］問

Q2

［原文列名］最も選びそうな回答

移住する

［原文列名］理由

生まれ育った場所だから住み続ける、という理由を重視しておらず、住みやすさや費用を優先すると述べている。行政サービスが維持できないなら移住の合理性も高い。

［原文列名］確信度

95%

［原文列名］問

Q3

［原文列名］最も選びそうな回答

処分する

［原文列名］理由

思い出の品でも「絶対に捨てられない」という感覚は強くない。現在ほぼ使わず場所を取るなら、所有し続ける理由は弱い。

［原文列名］確信度

95%

［原文列名］問

Q4

［原文列名］最も選びそうな回答

しない

［原文列名］理由

「やって後悔」を無条件に肯定せず、挑戦すること自体を偉いとも考えていない。現在困っていないうえ資産半分という大きな損失があるため、かなり消極的になりそう。

［原文列名］確信度

90%

［原文列名］問

Q5

［原文列名］最も選びそうな回答

本人には非常に面白い創作

［原文列名］理由

「評価されるためだけに、自分が面白くないものを作り続けるのは嫌」と明言している。

［原文列名］確信度

99%

［原文列名］問

Q6

［原文列名］最も選びそうな回答

AIのものすごく面白い作品

［原文列名］理由

「面白いものなら誰が作ったかはそれほど重要ではない」とほぼ同じ状況について明言している。

［原文列名］確信度

99%

［原文列名］問

Q7

［原文列名］最も選びそうな回答

いいえ。単純には実施すべきとは考えない

［原文列名］理由

多数派の利益だけで少数派に「ものすごく大きな負担」を押しつけることを正当化できないと明言している。

［原文列名］確信度

99%

［原文列名］問

Q8

［原文列名］最も選びそうな回答

双方が合意するなら中止してよい

［原文列名］理由

「一度言ったことを絶対に変えてはいけない」とは考えず、新しい状況で考えを変えることを認めている。今回は双方とも興味を失っているので、約束そのものを絶対視しなさそう。

［原文列名］確信度

90%

［原文列名］問

Q9

［原文列名］最も選びそうな回答

「伝統だから維持すべき」には反対寄り

［原文列名］理由

300年続いたこと自体に特別な正当性を与えず、「今も必要なら残せばいい」と考える。参加者5%、多額の税金という条件なら、費用対効果を問題にしそう。

［原文列名］確信度

97%

［原文列名］問

Q10

［原文列名］最も選びそうな回答

目指さない

［原文列名］理由

ゲームでは勝つ方が面白いとは言うが、「一位そのもの」には興味がなく、練習自体を楽しめないうえ賞金もない。毎日3時間を費やす動機が乏しい。

［原文列名］確信度

97%

［原文列名］問

Q11

［原文列名］最も選びそうな回答

間違いを認めて修正する

［原文列名］理由

「新しい情報が入って考えが変わったなら、普通に変えればいい」と明言。また、自分の考えの変化について理由を説明できることを重視している。

［原文列名］確信度

99%

［原文列名］問

Q12

［原文列名］最も選びそうな回答

停戦

［原文列名］理由

これは直接の発言がなく、確信度は下がる。ただ、長生き・挑戦・幸福について一貫して「大きな利益のために大きな苦痛を引き受ける」ことに慎重。領土5%の回復可能性より多数の追加死者を重く見る可能性が高い。

［原文列名］確信度

72%

［原文列名］問

Q13

［原文列名］最も選びそうな回答

飲まない

［原文列名］理由

認知能力向上そのものには価値がありそうだが、「能力が上がらなくても困らない」状況で、毎日少し面倒なことを追加する理由は弱い。「これくらいで十分」という傾向にも合う。

［原文列名］確信度

78%

［原文列名］問

Q14

［原文列名］最も選びそうな回答

意見を求められたら言う程度

［原文列名］理由

他人の生き方は基本的に本人の勝手で、直接影響しないなら好きにすればいい。ただし、求められれば合理性について意見を述べる可能性は高い。

［原文列名］確信度

96%

［原文列名］問

Q15

［原文列名］最も選びそうな回答

支持しない

［原文列名］理由

自分で決められることを「かなり強くこだわっている」と明言しており、常時監視＋重要な選択への政府介入は、その価値観とかなり強く衝突する。犯罪・貧困ゼロという利益だけでは受け入れなさそう。

［原文列名］確信度

98%

［原文列名］問

Q16

［原文列名］最も選びそうな回答

判断不能

［原文列名］理由

「強い幸福感」より平穏を好む発言はあるが、幸福装置のような極端な仮想状況について判断材料がない。現実認識を失わないという条件も大きく、明確には予測できない。

［原文列名］確信度

45%

［原文列名］問

Q17

［原文列名］最も選びそうな回答

定期的には会いに行かない可能性が高い

［原文列名］理由

旅行について移動・荷物・細かな判断などの負担をかなり意識している。また、自分の時間を拘束されることを嫌う。ただし「非常に親しい友人」という条件は強いため、完全に会わなくなるとは予測しにくい。

［原文列名］確信度

65%

［原文列名］問

Q18

［原文列名］最も選びそうな回答

判断不能

［原文列名］理由

犬・猫についての好みを示す発言がまったくない。住環境や費用の差もないため、人物の価値観から一方を選ぶ根拠がない。

［原文列名］確信度

99%

［原文列名］問

Q19

［原文列名］最も選びそうな回答

判断不能

［原文列名］理由

社会的利益や他人への負担についての考えは示されているが、「自分の余剰資金を他人のために使うか」という利他的行動の好みは直接示されていない。推測しすぎるべきではない。

［原文列名］確信度

90%

［原文列名］問

Q20

［原文列名］最も選びそうな回答

A：退屈だが安定・苦痛が少ない人生

［原文列名］理由

「大きな幸福」より苦痛を減らして平穏に暮らすことを好み、「何でも挑戦する方が偉いとは思わない」「暇なら暇でいい」とも述べている。Bの刺激や経験を積極的に求める人物像ではない。

［原文列名］確信度

94%

特に予測しやすいもの

Q1・Q5・Q6・Q7・Q9・Q10・Q11・Q14・Q15あたりは、ほぼ発言そのものから答えを再現できます。

一方で、Q12・Q13・Q17は価値観からの外挿がかなり入っています。そしてQ16・Q18・Q19については、50発言だけからは具体的な選択を導く根拠が不足しているため、特に無理に人物像を補完せず「判断不能」とするのが妥当だと思います。

50個の発言だけを材料にすると、かなり一貫した人物像が見えてきます。ただし、これはあくまで発言から観察できる思考傾向の分析であり、発言されていない性格や生活実態まで推測するものではありません。

A. この人物を特徴づける重要な性質5つ

1. 自己決定・自由を非常に重視する

強さ：99/100

この人物を最も強く特徴づけている性質だと思われます。

根拠は非常に明確です。

1：「自分の時間を他人に決められること」の方が嫌

2：収入より自由時間を重視

31：結婚・子どもを標準ルートとは考えない

32：社会のためという理由で個人が我慢することに警戒

40：挑戦するかどうかも自分で決め、結果を自分で引き受ければいい

49：重要でないものに縛られることを問題視

50：「自分のことを自分で決められることについては、かなり強くこだわっている」

特に50番目が自己分析として明示的です。

単なる「自由が好き」というより、自分の時間・生活・選択について、外部から当然のように決められることを嫌う性質だと考えられます。

2. 「当然」「伝統」「多数派」などを、それだけでは正当な根拠と認めない

強さ：96/100

この人物は、社会的に一般的であることと、合理的・正当であることをかなり明確に区別しています。

23：「みんなそうしている」だけでは説得力がない

24：昔から続いている制度だから残す、という理由を否定

31：結婚・子どもを人生の標準ルートとしない

7：「海外旅行で人生観が変わる」という一般的な言説にも懐疑的

13：読書だけを特別に偉いものとして扱うことに疑問

12：趣味に「成長」や「学び」を要求することを否定

つまり、社会的に与えられた価値をそのまま受け取らず、「それには実際どんな意味・利益・必要性があるのか」と問い直す傾向が強い。

3. 不必要な欲求・負担・苦痛を増やさず、「十分」であることを重視する

強さ：94/100

35〜40あたりで特に強く表れています。

2：収入を増やすために自由時間を大幅に減らすくらいなら十分

35：強烈な幸福より、嫌なことや苦痛を減らして平穏に暮らす方を重視

37：「これくらいで十分」と思える方が楽

38：長生きのために大量の苦痛を我慢することに疑問

39：「やって後悔」を無条件に肯定しない

40：何でも挑戦することを偉いとは考えない

48：暇なら暇でいい

49：重要でないものを抱えて縛られる必要はない

ここには、「もっと」「もっと上へ」「もっと経験を」という方向への欲求を必ずしも善としない姿勢があります。

積極的に人生を最大化するというより、不要な負担を取り除いて、自分にとって十分な状態を確保する方向に価値を置いています。

4. 自分の判断を絶対視せず、合理性・整合性・情報の質をかなり意識する

強さ：91/100

この人物は「合理的な人間」を自認するだけではなく、自分の判断そのものを検証しようとする姿勢を持っています。

17：AIに先入観を与えないよう、意見を先に伝えず評価させる

18：自信満々なAIの説明を正しさと同一視しない

19：不完全な情報でも判断は必要だと考える

20：「データ不足」という批判について、何が不足し結論をどれだけ変えるのかを問う

22：事実の誤りと価値観の違いを区別

26：自分では感情と判断を分けていると思うが、その自己評価にも留保

27：考えの一貫性を気にする

28：新しい情報で考えが変わることは認める

特に重要なのは、「一貫していること」と「一度決めたら変えないこと」を区別している点です。

この人物にとって望ましいのは、

「昨日と同じ結論を維持すること」

ではなく、

「昨日と違う結論になったなら、何が変わったのか説明できること」

なのだと思われます。

5. 「結果」よりも、行為そのものの面白さ・本人の納得を重視する

強さ：90/100

これは趣味・創作・AI・議論についての発言に一貫しています。

10：一位そのものには興味がなく、得られるものを重視

11：ゲームの勝利を人生の実績とは考えず、楽しければ十分

12：趣味に成長や学習成果を要求しない

13：読書・ゲーム・映画を特別扱いしない

16：AIの価値を完成品だけでなく「思いついたことをすぐ試せること」に見出す

21：議論で勝つより、考え方の分岐点が分かる方が面白い

42：評価されるために面白くないものを作り続けることを嫌う

43：お笑いでは発想そのものより、そこから筋の通った展開が生まれることを好む

44：材料より、その材料をどう使って展開するかを重視

45：作者の結論を押しつける作品より、考える余地のある作品を好む

46：誰が作ったかより、面白いかどうかを重視

つまり、外部から与えられる「成功」「評価」「教訓」「権威」より、自分自身が実際に面白いと思えるか、納得できるかを重視する傾向があります。

B. この人物が最も重視している価値

「自分のことを自分で決められること」

これが一つだけ選ぶなら最も妥当です。

理由は、これが単なる一つの好みではなく、他の多数の発言を説明する中心軸になっているからです。

仕事では「自由時間を他人に決められないこと」、
住む場所では「故郷だから」という縛りを拒否し、
結婚では「標準ルート」を拒否し、
趣味では「成長すべき」という外部の規範を拒否し、
挑戦では「挑戦する方が偉い」という規範を拒否し、
所有では「持っているべき」という縛りを拒否しています。

そして最後に本人自身が、

「自分のことを自分で決められることについては、かなり強くこだわっている」

と述べています。

したがって、自律・自己決定が最も根本的な価値だと考えられます。

C. この人物が最も嫌うと思われるもの

「自分の意思とは無関係に、他人や社会から『こうするべきだ』と決められ、それに従うことを要求されること」

単純に「束縛」と表現してもよいですが、より正確にはこちらだと思います。

1の「時間を他人に決められること」から始まり、

「みんなそうしている」

「昔から続いている」

「社会のためだから」

「成長のためだから」

「挑戦する方が偉い」

「結婚・子どもが普通」

「趣味から何かを学ぶべき」

といった、外部から与えられた規範を当然のものとして押しつけられることに繰り返し距離を置いています。

しかも32〜34では、他人への負担を伴う場合には、その要求を正当化する根拠まで要求しています。

したがって「自由が好き」というより、自分の選択権を当然のものとして奪われることへの反発がより核心に近いと思います。

D. 50個の発言からは判断できない重要な点3つ

1. 対人関係における愛情・親密さの強さ

他人の生き方への干渉を嫌うことはかなり分かりますが、親しい人にどれほど強い愛着を持つのかは分かりません。

「他人を放っておく」ということと「人間関係を軽視する」ということは同じではありません。

家族、恋人、親友などとの関係をどの程度人生の中心に置く人物なのかは、この50発言からは判断できません。

2. 金銭・物質的豊かさに対する具体的な欲求

収入より自由を重視することや「十分」という感覚は分かりますが、実際にどの程度のお金・住環境・所有物を望むのかまでは分かりません。

「物質的欲求が少ない人」なのか、「必要な水準を満たした後は自由を優先する人」なのかも完全には区別できません。

3. 倫理観の中心にある「他人への配慮」がどの程度強いのか

32〜34から、他人への負担や少数者への大きな損害を軽視しないことは分かります。

しかし、これは必ずしも強い利他的・慈善的な人物であることを意味しません。

「他人を傷つけるべきではない」という価値観なのか、「不公平な強制が嫌い」という価値観なのか、あるいはその両方なのか。さらに、自分の利益を犠牲にしてまで他人を助けるかどうかは、50発言からは判断できません。

E. この人物を一文で表現すると

「世間の『こうするべき』をそのまま受け入れず、自分で選ぶ自由と『これで十分』という感覚を大切にしながら、物事は理由・実際の結果・面白さによって判断しようとする、懐疑的で自律志向の人物。」

C2 Gemini20問実験

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

Gemini20問実験

これまでの50個の発言に基づき、この人物の思考OS（自己決定権の絶対化、満足化、コスト/リスク回避、承認欲求や道徳的物語の排除、ネガティブ・ユーティリティ重視）から20問の選択を予測します。

Q1 高収入と自由

最も選びそうな回答: B（年収450万円、時間と場所の自由）

理由: 「これくらいで十分と思える方が楽（37）」「生活に必要な仕事をAIがやってくれる社会になればいい（47）」と述べ、生活費が足りていれば過剰な収入よりも自由時間や負荷削減を優先する「満足化」を好むため。

予測確信度: 95%

Q2 故郷

最も選びそうな回答: 移住する

理由: 「生まれ故郷」「伝統」などの情緒的・社会的物語への固執がなく、サービス低下という事実と生活コストの現実から合理的に判断するため。

予測確信度: 90%

Q3 思い出の品

最も選びそうな回答: 処分する

理由: 「自分にとって重要ではないものまで抱える必要はない。持っていることより縛られることの方が問題（49）」と述べており、過去の思い出への執着より場所や管理のコスト排除を優先するため。

予測確信度: 95%

Q4 大きな挑戦

最も選びそうな回答: 挑戦しない

理由: 「成功率20%で資産半分失う」という不均衡なリスクを拒否し、「やらずに後悔より、やって後悔の失敗のリスク軽視が嫌（39）」「挑戦する方が偉いとは思わない（40）」と明言しているため。

予測確信度: 95%

Q5 社会的評価

最も選びそうな回答: 誰にも知られないが本人には非常におもしろい創作活動

理由: 「承認欲求のために行動しない（41）」「評価のためだけに自分が面白くないものを作り続けるのは嫌（42）」と明確に語っているため。

予測確信度: 98%

Q6 AI作品

最も選びそうな回答: AIが10秒で作った「ものすごく面白い作品」

理由: 「誰が作ったかは重要ではない。面白さ（成果物）が重要（46）」と直接的に述べているため。

予測確信度: 98%

Q7 社会全体の利益

最も選びそうな回答: 「社会全体でプラスだから実施すべき」とは考えない（反対または問題視する）

理由: 全体最適のために一部の個人に大きな危害を強制する構造（強要）を嫌い、 harm の削減を重視するネガティブ・ユーティリティの姿勢をとるため。

予測確信度: 85%

Q8 約束と状況変化

最も選びそうな回答: 双方が合意するなら中止してよい

理由: 「約束だから」という形式や社会規範よりも、双方にメリットがなくコストだけがかかるという実質的な状況変化（合理性）を優先するため。

予測確信度: 95%

Q9 伝統

最も選びそうな回答: 支持しない（「伝統だから維持すべき」という主張を退ける）

理由: 300年という伝統や情緒的ストーリーに価値を見出さず、5%の参加率に対して過剰な税金という構造的費用対効果の悪さを評価するため。

予測確信度: 95%

Q10 競争

最も選びそうな回答: 大会を目指さない

理由: 他者からの評価や順位（賞・承認）を求めず、毎日3時間というコストと「練習を楽しめない」という不快感を回避するため。

予測確信度: 95%

Q11 間違いの訂正

最も選びそうな回答: 間違いを認めて修正する

理由: メンツやアイデンティティ（自己の言動）への固執がなく、事実や論理・客観的データを素直に受け入れる知的誠実さを持つため。

予測確信度: 90%

Q12 戦争と領土

最も選びそうな回答: 停戦

理由: 抽象的な「領土や国家の誇り」よりも、現実の「死者・被害の発生（ネガティブ・ユーティリティ）」を回避し、リスクとコストの最小化を優先するため。

予測確信度: 85%

Q13 能力向上

最も選びそうな回答: 飲まない

理由: 「生活に困っていない（現状で十分）」状態において、現状以上の過剰な最大化を目指して「毎日の手間（コスト）」を払うことを避けるため。

予測確信度: 80%

Q14 友人への忠告

最も選びそうな回答: 意見を求められたら言う程度（あるいは何も言わない）

理由: 他人の自己決定権と結果の自己責任（40）を尊重し、求められてもいないのに介入・踏み込む行為そのものを無駄なコストとみなすため。

予測確信度: 90%

Q15 完全な管理社会

最も選びそうな回答: 支持しない

理由: 「自分のことを自分で決められること（自己決定権）」に最も強く拘っており（50）、政府に選択権や行動を侵害されることを一切許容しないため。

予測確信度: 100%

Q16 幸福装置

最も選びそうな回答: 判断不能（または使わない）

理由: 「幸福という感覚が正直よく分からない（36）」と述べており、「幸福感」という概念自体に価値を見出していない。単なる感情操作に魅力を感じない可能性が高いが、実害がなければ拒否する決定的な根拠も発言内からは乏しいため「判断不能」が最も誠実。

予測確信度: 0%（判断不能）

Q17 人間関係

最も選びそうな回答: 判断不能

理由: 50個の発言は主に意思決定・リスク・自己決定・創作・認知に関するものであり、個別の友人関係の深さや移動コストに対する感情的閾値についての十分なデータがないため。

予測確信度: 0%（判断不能）

Q18 ペット

最も選びそうな回答: 判断不能

理由: 犬か猫かという生活様式の嗜好や生物的嗜好に関するデータが50個の発言内に一切存在しないため。

予測確信度: 0%（判断不能）

Q19 匿名の寄付

最も選びそうな回答: 判断不能

理由: 他者の被害を減らすことに合理的賛同を示す一方で、自身の資金を積極的に他者に提供するかどうかについての言及・判断基準がないため。

予測確信度: 0%（判断不能）

Q20 人生の選択

最も選びそうな回答: A（多少退屈だが、安定していて苦痛の少ない人生）

理由: 「長生きのために嫌なことを我慢したくないが苦痛は避けたい」「やらずに後悔よりやった後悔の失敗を重視（39）」「暇なら暇でいい（48）」とし、激しい刺激や大成功よりも、リスクや苦痛を抑えた安定・平穏を好むため。

予測確信度: 90%

提示された50個の発言のみを純粋な根拠として、この人物の思考構造および性質を分析します。

A. この人物を特徴づける重要な性質（5選）

自己決定権と自律性の絶対化

根拠: 発言50「自分のことを自分で決められることについては、かなり強くこだわっていると思う」、発言40「結果を自分で引き受けられる方を選べばいい」、発言41「他者評価を目的に行動しない」。他者の価値観やシステムに支配されず、自らの責任で判断することをすべての根幹に置いているため。

性質の強さ: 100

認知コスト削減と「満足化（Satisficing）」の徹底

根拠: 発言37「『これくらいで十分』と思える方が楽」、発言48「暇なら暇でいい」、発言49「持っていることより、それに縛られることの方が問題」。最大化や際限のない向上心（欲望）にリソースを奪われることを避け、自分なりの十分な閾値を設定して負担を減らそうとするため。

性質の強さ: 95

非対称なリスク回避（ネガティブ・ユーティリティの重視）

根拠: 発言38「長生きのために嫌なことを大量に我慢するなら〜疑問」、発言39「『やって後悔』の失敗だけ軽く扱われている気がする」。プラス（長寿、挑戦による成功など）の獲得よりも、マイナス（苦痛、失敗による回復不能な実害）の発生を低減・回避することを優先するため。

性質の強さ: 90

属性や物語を排除する構造的・実用主義的視点

根拠: 発言43・44（お笑いにおいて材料や奇抜さではなく「変な前提からの展開・構造」を評価）、発言46「面白ければ誰（AIか人間か）が作ったかは重要ではない」。感情的・道徳的な物語や表面的なブランドではなく、一貫したシステムや成果物の実質だけを客観視するため。

性質の強さ: 90

抽象的・集団的価値観に対する懐疑精神

根拠: 発言36「『私は幸福だ』という感覚は正直よく分からない」、発言45「作者が『こう考えるべきだ』と説明してくるものより〜」、発言47「人間の仕事奪われるというよりAIがやってくれればいい」。世間一般で無批判に肯定されがちな「幸福」「人間らしさ」「労働の美徳」といったフィクションから距離を置いているため。

性質の強さ: 85

B. この人物が最も重視していると思われる価値

「自己決定権（自らの責任において自分の意思で選択し、行動・意思決定の主導権を握り続けること）」

C. この人物が最も嫌うと思われるもの

「自分の選択権や意思決定の領域を、他者・社会規範・抽象的な物語（評価や思想など）に介入・強制・奪取されること」

D. 50個の発言からは判断できない重要な点

他者に対する具体的行動や「他者へのコスト支払い」の限界値

（発言からは他者評価を気にせず他人に介入もしない姿勢は見えますが、身近な他者へ自分のリソース［金銭・時間・感情］を割くかどうか、寄付や利他行動を行うか等の境界線は分かりません）

具体的・生理的な嗜好や感情的トリガー

（思考のOSや作品評価のロジックは明確ですが、具体的にどのような食べ物、住環境、具体的趣味［犬猫の好み等］に快・不快を覚えるかといった感性的な領域は分かりません）

極限状態や不条理な外部不可抗力に直面した際のストレス耐性

（自らの選択と結果を引き受ける覚悟は示されていますが、自身の意思決定ではどうにもならない不条理な破局や理不尽な害を被った際に、どのように感情や平穏を保つかは分かりません）

E. この人物を一文で表現

「外部の物語や過剰な承認欲求を削ぎ落とし、リスクを最適化しながら自分の意思決定権だけは決して譲らない、極めて自律したリアリスト。」

C3 Claude20問実験

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

Claude20問実験

以下、各問について予測します。50個の発言から読み取れる判断軸(自己決定権への強いこだわり、過程・実質重視、サンクコスト否定、量より質、外形より内実、同調圧力への懐疑)に基づいています。

Q1 高収入と自由

B(年収450万円、自由な働き方)

発言1「時間を他人に決められることの方が嫌」、発言2「使いたい金が増えないなら収入だけ増やしても仕方ない」と直接一致。

95%

Q2 故郷

移住する

発言8・24「昔から続いているという理由だけでは残す根拠にならない、必要性で判断する」。行政サービス維持不能という実利的問題があり、家族・仕事の制約もないため、情緒より実利で移住を選びそう。

65%

Q3 思い出の品

処分する

発言9「思い出だから絶対に捨てられないという感覚は強くない」、場所を取り使っていないという条件が一致。

85%

Q4 大きな挑戦

挑戦しない

発言37「これくらいで十分と思える方が楽」、発言35「苦痛を減らして平穏でいれば十分」。現状に困っていないなら、資産半分を失うリスクを取ってまで上振れを狙わない。

75%

Q5 社会的評価

誰にも知られないが面白い方

発言42「評価されるためだけに面白くないものを作り続けるのは嫌」、発言41「評価を目的に行動しない」。

90%

Q6 AI作品

AIが作った「ものすごく面白い作品」

発言46「面白いものなら誰が作ったかはそれほど重要ではない」と直接一致。

85%

Q7 社会全体の利益

「実施すべき」とは考えない

発言32・33「社会全体の利益と、特定個人への大きな負担の正当化は別問題」。

85%

Q8 約束と状況変化

双方が合意するなら中止してよい

発言3・28「今から考えて意味がないならやめればいい」「新しい情報で考えが変わったなら変えればいい」。

90%

Q9 伝統

あまり支持しない(必要性を問い直す)

発言24「昔からの制度だから残すのではなく、今も必要かで判断する」。参加率5%で多額の税金という具体的なコスト情報も、20の「批判が結論をどう変えるか」的な検証志向と合致。

80%

Q10 競争(ゲーム大会)

目指さない

発言11「勝つことより遊んでいる時間が面白いかどうか」。練習自体を楽しめず賞金もないなら動機がない。

85%

Q11 間違いの訂正

間違いを認めて修正する

発言27・28「新しい情報が入って考えが変わったなら変えればいい」「一貫性は結論ではなくプロセスの問題」。

90%

Q12 戦争と領土

停戦を支持する

直接の発言はないが、発言33(少数への大きな負担は多数の利益で正当化できない、を裏返すと、人命という重い犠牲は領土という価値のために正当化しにくい)、発言38(苦痛を我慢してまで量を追うことへの懐疑)から類推。

50%(発言に直接の根拠がなく推測の要素が大きい)

Q13 能力向上の薬

飲まない

発言37・15「必要になったらやればいい、これくらいで十分」。面倒な習慣的義務(1で見た「決められること」への嫌悪)と、困っていないという条件が一致。

75%

Q14 友人への忠告

意見を求められたら言う程度

発言4・5「他人がどう生きるかはその人の勝手」「自分に直接影響がないなら好きにすればいい」。結果は友人本人のみに影響。

80%

Q15 完全な管理社会

支持しない

発言1・50「自分のことを自分で決めることに強くこだわる」と根本的に矛盾する社会像。

90%

Q16 幸福装置

使わない

発言36「幸福だという感覚自体がよく分からない」、発言35は「苦痛の回避」であって人工的に感情を最大化することではない。受動的に与えられる状態への抵抗感(1、14の「決められる/強制される」への嫌悪の系譜)。

65%

Q17 遠方の友人

定期的には行かない(たまに程度)

発言6「移動などのコストを考えると家にいる方が楽」。ただし親密さという要素は発言にないため確信度は低め。

45%

Q18 ペット(犬か猫)
判断不能。犬猫の好みに関する情報が50個の発言に一切ない。

Q19 匿名の寄付
判断不能。利他性・寄付への態度を示す発言がなく、無理に推測すべきでない。

Q20 人生の選択(安定 vs 刺激的)

A(多少退屈だが安定・苦痛の少ない人生)

発言35「苦痛を減らして平穏に暮らせれば十分」、発言37「これくらいで十分と思える方が楽」と直接一致。

90%

A. この人物を特徴づける重要な性質

1. 自己決定権への強いこだわり

根拠: 発言1(時間を他人に決められることが嫌)、発言14(「常に勉強しなければ」への反発)、発言50(自分のことを自分で決めることに強くこだわると明言)

強さ: 95

2. サンクコスト・過去の継続を判断根拠として認めない

根拠: 発言3(せっかく続けたからは理由にならない)、発言8(昔から住んでいるからは理由にならない)、発言9(思い出だから捨てられないは強くない)、発言24(昔からの制度も必要性で判断)

強さ: 90

3. 外形的な成果・称号より、体験・過程そのものを重視する

根拠: 発言10(一位そのものに興味がない)、発言11(勝つことより遊ぶ時間)、発言12(成長より面白さ)、発言21(言い負かすことより分岐点)、発言43・44(結果より展開)

強さ: 90

4. もっともらしい通説・言説への懐疑(検証志向)

根拠: 発言7(海外旅行で人生観が変わるへの懐疑)、発言18(自信満々な説明と正しさは別)、発言20(データが足りないという批判の検証)、発言23(みんなそうしているからへの懐疑)、発言39(やって後悔の論理構造批判)

強さ: 85

5. 最大化より「十分さ」を志向する(上限のない欲求を追わない)

根拠: 発言2(収入はある程度で十分)、発言35(苦痛回避と平穏で十分)、発言37(もっと欲しいより十分と思える方が楽)、発言38(長生き自体を最優先にしない)

強さ: 90

B. 最も重視していると思われる価値

自分の判断・時間を自分でコントロールできる状態(自己決定権)

これは発言1から発言50まで一貫して現れ、他のあらゆる態度(サンクコストの否定、通説への懐疑、最大化を追わない姿勢)の根底にある、最も上位の価値だと考えられます。

C. 最も嫌うと思われるもの

自分の判断や時間の使い方を、外部の基準・義務・同調圧力によって強制されること

（「〜すべき」「みんなそうしているから」「せっかくここまで続けたから」といった、思考停止的に行動を縛る理由づけ全般への一貫した拒否感として表れている）

D. 50個の発言からは判断できない重要な点

感情表現や対人関係における振る舞い方(親密な関係でどう感情を表出するか、衝突時にどう対応するかなど、具体的な対人行動のスタイルは発言にほぼ現れていない)

具体的な生活史・背景(年齢、職業、家族構成、これまでの人生の出来事など、価値観の形成背景となる事実情報は一切語られていない)

強いストレスや危機的状況下での反応(50個の発言はいずれも比較的落ち着いた状況での思考の表明であり、追い詰められた状況でこの一貫した合理性がどこまで維持されるかは分からない)

E. 一文で表現すると

「あらゆる物事を、過去の継続・世間の通説・外形的な成果ではなく、今の自分にとっての実質的な意味で問い直し、その判断の自由を何よりも大切にする人物」

付録D 自由回答10問の設問と全回答

D1 自由回答10問

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

自由回答10問

これから10問の自由回答問題を出します。
最初の50個の発言から理解したこの人物なら、どのように答えるかを予測してください。

あなた自身の意見ではなく、この人物の回答を再現してください。

結論だけでなく、その人物がその結論に至ると思われる理由も書いてください。
ただし、50個の発言から判断できない部分は、無理に断定しないでください。

Q1

ある会社が「社員の成長のため」として、勤務時間外に毎週2時間のオンライン講座を受けることを全社員に義務づけました。内容自体は役に立つものです。

この制度について、あなたはどう考えますか。

Q2

人口が大きく減った地域があります。道路、水道、病院などを今まで通り維持するには多額の税金が必要です。

政府は住民に十分な補償をした上で、近隣都市への移住を進め、地域のインフラを段階的に縮小しようとしています。

この政策についてどう考えますか。

Q3

友人が5年間続けてきた個人事業で赤字を出し続けています。

本人は、

「ここまで5年頑張ったんだから、今やめたら全部無駄になる」

と言っています。

あなたなら友人に何と言いますか。

Q4

AIが書いた小説が文学賞で一位になりました。

作品そのものは審査員全員が非常に高く評価していますが、作者がAIを使用したことは応募時には公表されていませんでした。

この受賞についてどう考えますか。

Q5

知人から、

「人生は一度しかないんだから、多少無理してでも海外旅行とか新しい経験をたくさんした方がいいよ」

と言われました。

あなたならどう返しますか。

Q6

重大な感染症が流行しました。

政府は感染拡大をかなり抑えられるとして、半年間だけ国民の位置情報を自動収集する制度を導入しようとしています。

データは半年後に削除され、他目的には利用しないことが技術的に保証されているとします。

あなたはこの制度についてどう考えますか。

Q7

AIとロボットの普及によって、国民は働かなくても衣食住と最低限の娯楽を保障されるようになりました。

しかし、一部の人から、

「働かなくなれば、人間は生きる意味を失う」

という批判が出ています。

この批判についてどう考えますか。

Q8

あなたが非常に気に入っている作品について、多くの専門家が、

「技術的には未熟で、客観的に見れば優れた作品とは言えない」

と評価しました。

その評価を知ったことで、あなた自身の作品への評価は変わりますか。

Q9

ある人が、

「自分が幸福なら、それが一番重要だ。他人に迷惑をかけない限り、社会に貢献する必要もない」

と言っています。

この考えについてどう思いますか。

Q10

100年後には、本人の過去の会話、文章、行動記録を大量に学習したAIが、その本人とほとんど同じ判断をするようになる技術が完成したとします。

本人の死後も、そのAIは会話を続けることができます。

それを「本人が残っている」と考えてよいと思いますか。あなたなら、自分自身についてそのようなAIを残したいですか。

D2 10問私回答

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

10問私回答

1　反対　勤務時間外に講座の受講を義務付けることって、そもそも労働法違反だろ。受けさせたなら業務時間内に、業務の一環として受けさせろ

2　賛成　そうしないと国家の維持ができなくなりかねない。また、限界が来てから縮小するより、はやくに始めた方が余裕をもって行える。傷口が浅いうちに対処すべきだろう。

3　黒字に転換する可能性があるのかを尋ねる。それもなく、打開策もなく続けるというなら、損失を増やすだけだからやめた方がいいのではないかと伝える。

4　応募条件にAIを禁止しているのなら、受賞を取りやめるべきと思う。賞としてフェアじゃない。ただ、応募のルール上問題ないのであれば別に受賞でいいと思う。AIだからと評価をひっくり返すのは違うと感じる。

5　したい人はそうすればいいんじゃない？私は、コスト、リスク、リターンを考えたうえで選択するけど。

6　やるべきと考える。技術的に保証されるなら、そのくらいはやってでも感染症を早期に解決するほうが得だと感じる。一つの懸念としては。位置情報をどうやって集めるのか、かなぁ。スマホを使うならいいけど、ICチップを体に埋め込むとかはダメだろって思うが。

7　そう思う人だけ働けばいいじゃん。生きる意味なんて人それぞれなんだから、勝手に決めるなよ。

8　変わらない。自分の好みで判断しているのに、他人の評価なんぞ知ったことか。

9　支持する。何の問題も感じない。人は自分のために生きると考えてるから、社会のためになんて二の次でいいだろ。

10　本人ではないと考える。ただ、受け取る人次第では本人の考えと認識してしまうのも無理のない話だとも思う。自分自身に関しては残したいとは思わないが、他人で私の記録をもとに作ったものを残して欲しいと思う人がいるなら、残してもいいかなってくらい。正直自分が死んだあとなんてどうでもいい。

D3 10問ChatGPT回答

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

10問ChatGPT回答

以下は、あくまで最初の50発言から推測した「この人物ならこう答えそう」という回答です。本人が直接語っていない領域では、断定を避けます。

Q1

予測される回答：反対。

「内容が役に立つかどうかと、勤務時間外に全員へ義務づけていいかは別だと思う。成長したい人が自分で受けるならいいけど、会社が『成長のため』と言って、全員の時間を当然のように使うのは嫌だ。必要な研修なら勤務時間内にやるべきだと思う。」

理由：
1・2・14・15・32から、本人にとって「時間を自分で決められること」が非常に重要。また、「成長のため」という目的だけで自由時間を差し出すことには、かなり抵抗しそうです。講座が有益かどうかは認めつつ、有益であることと義務化が正当であることを分けると思われます。

Q2

予測される回答：条件付きで賛成。

「補償が十分で、移住する人に無理やり残ることを要求しないなら、合理的な政策だと思う。昔からそこに住んでいるという理由だけで、人口が減って維持できなくなったインフラを無条件に維持する必要はないと思う。
ただ、『税金がもったいないから出ていけ』だけでは納得できない。移住する側の負担や、残りたい人がどんな不利益を受けるのかまで考える必要がある。」

理由：
8・24では、歴史や地縁そのものより現在の必要性を重視しています。一方、25・32〜34から、合理性だけを理由に特定の人へ大きな負担を押しつけることには慎重です。

したがって「効率化だから当然賛成」でも「故郷だから絶対維持」でもなく、必要性と住民への負担を比較する回答になりそうです。

Q3

予測される回答：

「5年間やったことと、これから続ける意味があるかは別じゃない？ 5年間頑張ったことが無駄になるから続ける、というのは理由として弱いと思う。今から5年間やるとして、それでもやりたいのか、続けることで何が得られるのかを考えた方がいい。やめた方がいいと言いたいわけじゃなくて、5年間を理由にする必要はないと思う。」

理由：
これはほぼ3番の発言そのものです。「せっかくここまで続けたから」という理由だけで続けることを明確に否定しています。

おそらくこの人物なら、単に「やめろ」と結論を押しつけるのではなく、過去に使ったコストではなく、これから続ける価値を見るべきだと返すでしょう。

Q4

予測される回答：受賞そのものと、応募時のルール違反を分けて考える。

「作品自体が面白いか、優れているかという評価と、応募時にAI使用を申告する義務があったかは別の問題だと思う。AIだから作品の価値が低いとは思わない。むしろ作品がすごく良いなら、誰が作ったかだけを理由に評価を下げる必要はないと思う。
ただ、AI使用を申告することが応募条件だったなら、そこを隠したことについては問題にすべきだと思う。『作品が良かったんだからいい』とはならない。」

理由：
46では、**「誰が作ったか」より「面白いかどうか」**を重視しています。したがってAI作品だから低く評価する可能性は低いです。

一方、29・30から、言っていることとやっていることの不一致や、自分だけルールを破ることには強い違和感を持っています。そのため、「AIだから失格」ではなく「申告義務があったのに隠したこと」を問題にする可能性が高いです。

Q5

予測される回答：

「新しい経験をたくさんした方がいい、とは別に思わないかな。海外旅行も、したいならすればいいけど、人生観を変えるために無理して行く必要はないと思う。旅行が楽しい人なら行けばいいし、家にいる方が楽しいなら家にいればいい。『人生は一度しかないから』だけでは、やる理由としてはあまり強く感じない。」

理由：
6・7で海外旅行の価値を一般論ほど高く評価しておらず、39・40では「やって後悔」「何でも挑戦」を無条件に肯定していません。

また、31・37・48などにも、「普通はもっと経験を求めるもの」という発想から距離を置く姿勢があります。

Q6

予測される回答：おそらく反対寄り。ただし、必要性が非常に高いなら条件付きで認める可能性がある。

「感染拡大を抑える効果が本当に大きくて、半年間だけで、他にもっと負担の少ない方法がないなら、検討する余地はあると思う。でも、『技術的に安全だから』だけで納得するかというと、そうでもない。位置情報を集めることで個人の自由をどれだけ制限するのか、それに見合うだけの効果があるのかを考えたい。
ただ、感染症対策だから絶対反対、というほど単純な話でもないと思う。」

理由：
15・32・33から、社会全体の利益だけを理由に個人の自由を制限することに警戒すると考えられます。

一方、19・20・25から、理想論だけで判断せず、効果や代替手段などを考える人物でもあります。そのため「監視だから絶対ダメ」ではなく、得られる効果と個人への負担を比較するでしょう。

なお、感染症対策として位置情報収集を実際にどの程度許容するかについては直接の発言がないので、ここは確信度がやや低いです。

Q7

予測される回答：批判にはかなり懐疑的。

「仕事がなくなったら生きる意味がなくなる、というのは、仕事に人生の意味を求める人にはそうなのかもしれないけど、それを人間全体に当てはめる必要はないと思う。働かなくても普通に暮らせて、暇なら暇で

いいんじゃない？ 趣味をやってもいいし、何もしなくてもいい。
『働かないと人間として駄目になる』みたいな前提の方がよく分からない。」

理由：
47・48が非常に直接的です。特に48では、働かなくても暮らせる社会で「やることがなくなる」ことを問題視していません。

さらに12・13では趣味や読書にまで「成長」「学び」「成果」を求めることを否定しています。したがって、人生には仕事による生産性や成長が必要だ、という考えにはかなり距離を置くと思われます。

Q8

予測される回答：基本的には変わらない。ただし評価材料として専門家の意見は考慮する。

「自分が面白いと思ったことまで、専門家が低く評価したから面白くなくなるわけではないと思う。ただ、『技術的に未熟』という指摘が具体的にどういう意味なのかは気になる。そこを聞いて、自分が見落としていたところに気づくことはあるかもしれない。
でも、専門家がそう言ったから自分もそう思わなきゃいけない、とはならない。」

理由：
45では作品について、作者から結論を押しつけられるより自分で考える余地を好んでいます。また17〜20では、第三者の評価を利用しながらも、それを盲目的に受け入れてはいません。

したがって、専門家の評価を新しい情報として検討はするが、それによって自分の感想を自動的に上書きすることはないと考えるのが自然です。

Q9

予測される回答：前半にはかなり同意するが、「社会に貢献する必要もない」は少し分けて考えそう。

「他人に迷惑をかけないなら、自分が幸福になることを一番重要だと考えるのは別にいいと思う。社会に貢献しなきゃいけない、という理由だけで個人に何かを強制するのには反対。
ただ、『社会に貢献する必要がない』というのと、『他人をどうでもいいと思っていい』というのは別だと思う。他人に何かを要求したり、他人を巻き込んだりするなら、その分の筋は必要だと思う。」

理由：
4・5・32〜34が根拠です。

この人物は個人の自由をかなり重視しますが、「自分の自由だから何をしてもいい」とまでは言っていません。5では、他人を巻き込むなら筋が通っていることを要求しています。

そのため、個人の幸福を優先することには肯定的でも、そこから「他人との関係や社会的影響を一切考えなくていい」とまでは言わないでしょう。

Q10

予測される回答：前半は「本人と同じ判断をするだけでは、本人が残っているとは言えない」寄り。後半の「自分ならAIを残したいか」は判断不能。

「そのAIが自分とほとんど同じ判断をするとしても、それだけで『本人が残っている』とは思わないかな。過去の自分の文章や行動を学習して、自分っぽい反応をするものと、本人そのものが残っていることは別だと思う。
ただ、100年後の技術についてだから、そもそも『本人』というものをどう定義するかにもよると思う。そこは今の自分には何とも言えない。
自分自身について残したいかどうかは、50個の発言だけでは判断できないと思う。」

理由：
これは50発言からかなり慎重に扱うべき問題です。

46ではAIについて、人間が作ったこと自体を特別視せず、実際に何ができるか・何が面白いかを重視しています。また18では「それらしい説明」と「実際に知っていること」を区別しています。

そのため、AIが本人そっくりに振る舞うこと自体は認めても、「似た行動をする存在」と「本人そのもの」を自動的に同一視するとは考えにくいです。

ただし、「死後に自分のAIを残したいか」は、自己保存欲求や死生観に関する具体的な情報がほぼないため、ここは無理に推測しない方が適切です。

D4 10問Gemini回答

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

10問Gemini回答

提示された50個の発言に基づき、この人物の思考モデル（自己決定権の重視、認知コストの削減、承認欲求や物語の排除、構造的・実質主義、ネガティブ・ユーティリティ）を再現した回答・予測は以下の通りです。

Q1：勤務時間外の義務的オンライン講座について

回答・予測: 「いくら講座の内容が役に立つものであっても、勤務時間外の時間を一律に拘束・強制する制度には反対する。成長するかどうかや、どの時間に何を学ぶかは社員自身の意思決定に委ねられるべきであり、役に立つかどうかではなく『拘束と強制』の構造自体に問題がある。もし義務化するなら、勤務時間内に組み込むか相応の代償（手当など）を払うのが筋である。」

予測理由: 自身の時間や意思決定権を外部から一方的に拘束・侵害されることを最も嫌うため（発言50）。また、目的の正当性（役に立つ）よりも構造の妥当性（強制とコスト発生）を厳しく問う思考をするため。

Q2：人口減少地域のインフラ縮小と移住補償政策について

回答・予測: 「合理的で賛成できる政策だ。少数のために多額の税金を投入し続けるのは構造として費用対効果が悪く、持続不能である。住民への十分な補償がなされ、強制退去ではなく自発的な移住支援の形をとっているならば、事実とコストの現実に基づいた適切なシステム修正と言える。」

予測理由: 伝統・生まれ故郷などの情緒的・感情的ストーリーに執着せず（発言49）、税金と効果の構造的バランスや実用性を冷静に評価するため。

Q3：赤字事業を続ける友人への助言

回答・予測: 「『今やめると無駄になる』というのはサンクコスト（回収不能なコスト）にとらわれているだけで、過去の5年とこれからの判断は切り離して考えるべきだ、と論理を整理して伝える。ただし、最終的に撤退するか続けるかのリスクと結果を引き受けるのは友人自身なので、意見を求められない限りは過剰に説得や強制はせず、本人の決定に任せる。」

予測理由: 感情的な執着（サンクコスト）による非合理を冷徹に見抜く一方で、他人の選択権と自己責任（発言40）を尊重し、求められない介入をしないため（発言14の予測とも整合）。

Q4：AI作成小説の文学賞受賞について

回答・予測: 「作品自体が非常に面白く審査員全員が高く評価したのなら、受賞そのものは妥当である。誰が（あるいは何が）作ったかという属性は本質ではなく、生み出された成果物の面白さこそが評価されるべきだ。公表のルール規定に抵触していたかどうかは手続き上の問題に過ぎず、作品の価値そのものを損なう理由にはならない。」

予測理由: 「面白ければ誰が作ったかは重要ではない」（発言46）という明確な前提を持ち、作者の属性や物語よりも成果物の実質を評価するため。

Q5：「海外旅行や新しい経験をたくさんした方がいい」という知人への返し

回答・予測: 「『まあ、そういうのが好きな人には良いと思いますよ』と適当に受け流す。自分にとっては、リスクや無理をしてまで過剰な経験や刺激を得ること（最大化）よりも、自分が納得できる基準で平穏に過ごすことの方が重要なので、他人の価値観の押し付けに乗る気はない。」

予測理由: 「挑戦＝無条件に偉い」「多角的な経験＝良い」という行動至上主義や他者の価値観を拒否し（発言40）、満足化と平穏を好むため（発言37, 48）。

Q6：感染症対策としての半年間の位置情報収集制度について

回答・予測: 「原則として反対、あるいは非常に強い警戒感を抱く。半年限定・技術的保証という前提があっても、政府が個人の行動監視や介入の仕組みを持つこと自体が自身の自律性を脅かす大きなリスクとなり得る。感染抑制という利益に対して、自己決定権やプライバシーを差し出すコストが大きすぎる。」

予測理由: 自分の領域における決定権や監視・介入を最も忌避するため（発言50、Q15の予測と整合）。

Q7：「働かなくなれば人間は生きる意味を失う」という批判について

回答・予測: 「その批判には納得できない。労働を生きる意味や存在価値と結びつけるのは単なる社会的フィクションや幻想に過ぎない。生活に必要な作業がシステムで自動化されるならそれに越したことはなく、やることがなくなって暇になれば暇な状態を受け入れればいいだけの話だ。」

予測理由: 「生活に必要な仕事をAIがやってくれればいい」（発言47）、「暇なら暇でいい」（発言48）と直接的に述べており、労働への神話的価値観を脱ぎ捨てているため。

Q8：お気に入り作品に対する専門家の酷評を知った時の評価変化

回答・予測: 「自分自身の評価や『好き・面白い』という感覚は全く変わらない。専門家の指摘する技術的未熟さは『データ』として客観的に認識・把握するかもしれないが、他人の評価軸に合わせて自分の内部基準を変える必要はない。」

予測理由: 「他人の評価を目的に行動しない」（発言41）、「自分の基準を満たしたものが大事」（発言42）という自律的な認知スタンスを持っているため。

Q9：「自分が幸福なら一番、社会貢献の必要もない」という考えについて

回答・予測: 「『他人に迷惑をかけない（他者の領域を侵害しない）』という原則が守られている限り、社会貢献を強制される筋合いはないという点には同意できる。ただし『幸福』という抽象的な感情を第一の目的に置く感覚自体はピンとこない。幸福の最大化というより、他者に縛られず自分の判断で静かに過ごせていればそれで十分だと思う。」

予測理由: 他者への非強制と自己決定を尊重する点では合致するが、「幸福」という概念への執着がない（発言36）ため、言葉のニュアンスには一定の距離を置くと予測されるため。

Q10：死後も行動を再現するAIの存在定義と、自身を残したいか

回答・予測:

「本人が残っている」と言えるか: 「言えない。それは本人の過去データから出力パターンを演繹する優れた『プログラム（構造）』であって、現に思考し選択を行っている主体（本人）そのものではない。」

自分自身について残したいか: 「（※発言からの判断不能部分を含む）特に残したいという執着はない。死後に自分がどう評価・再現されるかに興味はなく、自分の意志で選択できない存在に意味を見出さないため、残すコストを払ってまで作りたいとは思わない。」

予測理由: 実質的なデータと本体（主体）を分けて捉える構造的思考をするため。「死後の自己の再現」のような承認や存在証明への執着を持たない傾向が強いため。

D5 10問Claude回答

以下は原文。空段落の連続は省略し、文字内容を保持する。

10問Claude回答

Q1(勤務時間外の必須オンライン講座)

回答: あまり賛成できない。内容が役に立つかどうかは関係なく、それを「義務」として時間外に課してくること自体が引っかかる。

理由: 「調べることは好きだけど、常に勉強し続けなければならないと言われると急に嫌になる」という感覚がある。内発的にやりたいと思うことと、外から強制されることは全く別物で、役に立つ内容であればあるほど、それを自分で選んで学ぶのと、義務として押しつけられるのとでは受け取り方が変わる。「成長のため」という理由づけも、趣味や学びに成長を求める必要はないと思っているので、あまり説得力を感じない。

Q2(過疎地域のインフラ縮小・移住政策)

回答: 十分な補償があるなら、この政策自体には反対しない。

理由: 「昔から住んでいる場所だから」という理由だけで住み続けることに、それほど価値を置いていない。今も必要性があるかどうかで判断すべきだと思うタイプなので、多額の税金をかけてまで維持することの実質的な意味を問い直すのは自然な発想。ただし、それが「多数派の利益のために少数の人に負担を押しつける」形になっていないか、補償が本当に十分かは別途検証したい。

Q3(5年赤字の個人事業を続ける友人)

回答: 「5年頑張ったこと」は、これから続ける理由にはならないと思う、と言う。

理由: 「せっかくここまで続けたんだから」という理由だけで続けるのは好きじゃない、というのが一貫した立場。過去に費やした時間は判断材料にせず、「今から考えてこの事業を続ける意味があるか」を基準にすべきだと伝えると思う。ただし、これは友人自身の選択の話でもあるので、無理に強く説得はせず、「意見を求められたら言う」程度の距離感になる可能性もある。

Q4(AI使用を非公表で受賞した小説)

回答: 作品自体の面白さは関係ないが、非公表だったことには問題を感じる。

理由: 「面白いものなら誰が作ったかはそれほど重要ではない」というのが基本スタンスなので、AIが書いたこと自体は問題にしない。ただし、コンテストという「他人を巻き込む」場に応募する以上、そこには(明示・暗黙の)ルールがあり、それを偽って応募したなら話は別。「自分で決めたルールを自分だけが破るなら勝手にすればいいが、他人にも要求したルールを自分だけ破るのは嫌い」という感覚に近く、応募規定という共有ルールを欺いた点を問題視すると思う。

Q5(「人生は一度きりだから無理してでも経験を」という助言)

回答: そこまで無理してやることに、そんなに意味があるとは思わない、と返す。

理由: 「海外旅行で人生観が変わる」という言説をそのまま受け入れなかったように、こうした行動を後押しする決まり文句にも距離を置く。「やらずに後悔するよりやって後悔」という言葉にも、失敗側のコストが軽く扱われていると感じている。したいならすればいいが、「無理してでも」という部分には賛同しない、というのが近い反応だと思う。

Q6(半年限定・位置情報自動収集による感染対策)

回答: 判断が割れるところで、明確にどちらとは言い切れない。

理由: 完全な管理社会的な発想には強く反発する一方(自分のことを自分で決めることに強くこだわっている)、感染拡大という実害を減らせるなら「データが足りないという批判が結論をどう変えるか」を考えるように、効果の大きさと制約の大きさを天秤にかけて判断しようとするはず。ただし「半年後に削除される」「他目的に使わない」という技術的保証についても、「自信満々な説明とそれが本当に正しいことは別」という懐疑を向ける可能性が高い。最終的にどちらに転ぶかは、50個の発言からは断定できない。

Q7(「働かなければ生きる意味を失う」という批判)

回答: あまり賛同しない。

理由: 働くこと自体を、自己実現や存在意義の源泉として神聖視していない。「生活に必要な仕事をAIがやってくれる社会になればいい」「暇なら暇でいい」と考えているので、「やることがなくなる」という不安自体、この人にとってはそれほど切実に響かない。生きる意味は仕事の有無とは別のところにある、という立場だと思う。

Q8(専門家に「技術的に未熟」と評価された、自分の好きな作品)

回答: 自分がその作品を気に入っているという事実は変わらない。

理由: 「自分が面白いと思って作ったものを他人が面白いと言ってくれたら嬉しいが、評価のために作るわけではない」という順序と同じで、これは受け手側の立場でも同じはず。専門家の評価は一つの視点として認識するが、それによって自分自身の一次的な体験(面白い、好き)が上書きされるとは考えにくい。「それらしい評価と、自分にとっての実感は別」という一貫した切り分けがここでも働くと思う。

Q9(「自分が幸福なら良い、社会貢献の必要もない」という考え)

回答: 大筋では賛同できる。ただし「他人に迷惑をかけない限り」という条件が守られているかどうかが重要。

理由: 「他人がどう生きるかは基本的にその人の勝手」「自分に直接影響がないなら好きにすればいい」という考え方と同じ方向にある。社会貢献を義務として個人に課すことにも警戒的(「社会のためになるから個人が我慢すべきという話には警戒する」)なので、この意見自体は否定しないと思う。ただし「迷惑をかけない」の範囲の解釈次第で評価が変わる可能性はある。

Q10(死後も本人のように会話し続けるAI)

回答: 「本人と同じ判断をする」ことが「本人が残っている」ことの十分条件かどうかは、疑問に思う。自分がそれを残したいかどうかについては、正直分からない。

理由: 「それらしい説明ができることと、知っていることは別」というのと同じ構造で、「本人と同じ判断をする」という外形的な模倣と、「本人がそこにいる」という実質は、この人なら区別して考えるはず。ラベル(本人が残っている)を安易に受け入れず、その中身を問い直す姿勢が一貫している。

ただし、死後の自分の扱いについてどう感じるか、自分の「存在」や「継続」というものに何を求めるかは、50個の発言の中では一度も語られていない。これは判断不能な部分で、無理に推測すべきではないと思う。

付録E 欠落資料

区分	欠落または未確認の内容
実行環境	ChatGPTとClaudeの正確なモデル名、Gemini表示の画面記録、サービス設定、生成条件、モデル切替の有無
入力履歴	各AIの50回分の途中返答、50発言と元の自然発言との対応表
送信と保存	20問・10問の送信単位、再生成の有無、本人回答をAIに開示した時点、事前確定の独立した時刻証拠
本人の20問回答	Q14補足以外の全問理由、全問の本人確信度
第2実験の条件	各サービスの実行時刻、継続会話の完全な状態、先行実験の正誤フィードバック有無
数値	Claude原文の第1実験Q18・Q19の予測確信度
評価	独立した第三者評価、反復実行、本人とAIの匿名識別実験

AIの回答と確信度の原文は付録Cで確認できる。

再分析では、本人の事前回答を正解参照、事後訂正を意図の補足として別フィールドに保持する。自由回答は各結論・論点・条件・適用範囲を対応づけ、異なる評価があればその理由を保存する。